合衆国領事裁判訴訟法/シドモール(講義) ; 渋谷慥爾(訳述) ; 畔上啓策(編輯)
(英吉利法律講義録(1886(明治19)年度 第1年級))

このPDFファイルは、英吉利法律講義録(1886(明治19)年度 第1年級)(原装本デジタル・データ)から、合衆国領事裁判訴訟法の部分を抽出して編集したものである。

2015年7月　中央大学大学史資料課

合衆國領事裁判訴訟法

米國法律學士 シドモール 講義
法學士 澁谷 愷爾 譯述
校友 畔上 啓策 編輯

緒言

諸君予ハ今日ヨリ本校ニ於テ亞米利加合衆國ノ法律ヲ講述セントスルニ方リ學生諸君ノ斯學ヲ攻窮スルニ特ニ肯緊ナルモノハ合衆國ノ法律其數多シト雖惟フニ學生諸君及諸君ノ同胞兄弟ニ最密接ノ關係ヲ有スルモノ卽大日本帝國ニ於ケル合衆國ノ公使館及領事廳ノ沿革組織管轄權及其之ヲ實行スルノ手續如何ヲ講述スルヲ以テ最必要ナルコトヽ信スルナリ諸君ソレ能ク其意ヲ諒シ審議討論シテ以テ諸君講學ノ一端ヲ補フニ足レハ幸甚

ケ四十五

英吉利法律講義録 1886(明治19年) 第1年級第3号(1886年10月2日発行)

第二編　民事訴訟手續

第一章　公使及領事廳ノ沿革

一千八百五十七年日米兩國間ニ締結シタル盟約ノ第四條ニ曰日本國內ニ於テ罪ヲ犯シタル合衆國ノ人民ハ日本國駐在ノ米國總領事又ハ領事之ヲ審問シ米國ノ法律ニ據リテ所斷スヘシトアリ

一千八百五十八年右條約ヲ改正シ其第六條ニ曰日本國民ニ對シテ罪ヲ犯シタル合衆國人民ハ同國領事廳ニ於テ之ヲ審問シ犯罪ノ證據判然スルトキハ米國ノ法律ニ依リテ所分スヘシ云々ト

此條約又ハ此條約ニ追加シタル貿易條例ヲ犯シタルモノニ對シ罰金又ハ沒收等ヲ請求スルノ訴訟ハ總テ之ヲ米國領事廳ニ提起シ其請求ノ金額若クハ物品ハ之ヲ日本國官吏ニ交付スルモノトス

又右條約ノ第九條ニ曰日本國ノ官吏ハ米國領事ノ依賴アルトキハ合

Treaty

日米兩國間ノ條約

衆國ノ犯罪者ニシテ逃亡シタル者ヲ速カニ逮捕シ領事ニ於テ犯罪者ト判定シタルトキハ之ヲ日本政府ノ監獄署ニ留置シ且米國領事カ日本在留ノ米國人民ヲシテ米國ノ法律ヲ遵奉セシムル爲メ又ハ日本國ノ各港ニ停船スル商船ノ安全ヲ保護スル爲メ其職務ヲ行フニ方リ日本國ノ官吏ハ必要ノ補佐ヲ與フルモノトス而シテ米國領事ハ日本政府ニ對シ監獄費其他補佐ヲ受ケタル事柄ニ付キ相當ノ報酬ヲナスヘシトアリ右條約ノ條項ニ就テ見ルトキハ米國領事ハ其國民又ハ外國人民ニ對シテ民刑事件ノ裁判權ヲ有スルト雖日本國民ニ對シテハ毫モ民刑事件ノ法庭ヲ開クノ職權ヲ有セサルヤ明ナリ然レトモ一千八百五十四年(嘉永七年)ノ神奈川條約第九條ヲ見ルニ大日本政府若將來ニ於テ他國ト締盟シ曾テ合衆國ニ准許セサル特權及利益ヲ他國及其國民ニ准許スルトキハ合衆國及其國民ニモ亦右ト同一ノ特許及利益

ろNation favored clause

嘉永七年ノ條約

日英兩國間ノ條約

ヲ直チニ付與スヘキモノトストアリ蓋此條項ハ最ろ惠國條項ト稱シ獨リ合衆國トノ條約ノミニ限ラス何レノ國ノ條約ト雖必附加セルモノナリ

右條約ノ勢力及其効果ヲ充分ニ理解セント欲セハ必先日本政府カ右神奈川條約以後ニ他ノ外國ニ締結シタル條約ノ如何ヲ審カニセサルヘカラスト雖余ハ今諸君ニ對シ日本政府カ諸外國ト締結シタル條約中領事ノ司法權ニ關スル一切ノ條款ヲ列叙スルヲ欲セス單ニ右ニ掲ケタル條約ノ欠點ヲ補充スル條項ノミヲ擧クルヲ以テ足レリト信ス」

日本政府カ一千八百五十八年ニ於テ英國ト締結シタル盟約ヲ見ルニ曰凡物權ト人權トヲ問ハス大日本帝國內ニ在留スル英國臣民ノ間ニ權利ノ爭論ヲ來スニ方リ之ヲ所斷スルノ管轄權ハ總テ英國ノ官吏ニ屬スルモノトス而シテ又英國ノ臣民タル者若大日本帝國臣民又ハ他

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第3号(1886年10月2日発行)

國ノ臣民ニ對シテ罪ヲ犯ストキハ英國領事又ハ職權ヲ有スル其他ノ官吏ニ於テ之ヲ審問シ英國ノ法律ニ照シテ處分スルモノトスト一千八百六十九年ニ於テアウストローハンガリー國ト締結シタル條約ハ猶一層廣濶ナル准許ヲ含蓄スルモノヽ如シ其條約ニ曰凡大日本帝國內ニ居住スルアウストローハンガリー帝國ノ臣民間ニ物權又ハ人權ニ關シ爭論ヲ來ストキハ右帝國ノ官吏ニ於テ之レヲ管轄所分シ日本政府ハアウストローハンガリー帝國ノ臣民ト他ノ盟約各國臣民トノ間ニ起ル事件ニ干涉スルヲ得サルモノトス

アウストローハンガリー帝國ノ臣民タルモノ若大日本國民又ハ他ノ外國臣民ニ對シテ罪ヲ犯シタルトキハ帝國ノ領事官之ヲ審問シ帝國ノ法律ニ照ラシテ處分スルモノトスト

日本帝國ノ臣民若合衆國民ニ對シテ罪ヲ犯シ又ハ合衆國民ノ爲メニ

Austro-Hungary

墺國トノ條約

英吉利法律講義録 1886(明治19年) 第1年級第3号(1886年10月2日発行)

民事被告トナサルヽトキハ被害者タル合衆國民ハ日本政府ニ對シ救濟ヲ請求シ得ルモノトス但其請求ヲ提起スル手續ハ合衆國ノ領事廳ヲ經由スルモノトス

大日本帝國ト盟約ヲ實施スル爲メ合衆國ノ國會ハ一千八百六十年ニ於テ更ラニ一ノ法律ヲ制定シテ日本帝國駐在ノ米國公使及領事ニ委任スルニ裁判ノ權ヲ以テシ之ヲ實際ニ適用スルノ規則ヲ設ケタリシカ此ノ法律規則ハ載セテ合衆國ノ改正布告全書第四十七章ニ在リ

第二章　合衆國公使及領事廳ノ組織

領事廳ノ位置及管轄區域

合衆國々會ニ於テ定メタル布告ニ依リ日本ニ於ケル合衆國ノ領事廳ハ横濱(法律上神奈川ト稱ス)大坂、兵庫及長崎ノ四ケ所トス又以前ニ在テハ江戸、新潟、下田、函館及佐渡島ニ合衆國ノ領事廳ヲ設ケタリト雖今日ニ於テハ右ノ五領事廳ヲ廢シ其管下ニ屬セシ場所ハ盡ク神奈川駐

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第3号(1886年10月2日発行)

在ノ總領事ニ於テ之レヲ管轄スルナリ

神奈川駐在總領事ノ管内ニ屬スル場所ハ北ハ北海道南ハ神奈川ヨリ大坂ニ至ル間ノ中央マテニシテ大坂及兵庫駐在領事ノ管轄ニ屬スル場所ハ神奈川ヨリ大坂ニ至ル間ノ中央ヨリ兵庫長崎間ノ中央マテニシテ其ヨリ西南ハ盡ク皆長崎駐在領事ノ管轄ニ屬スルモノトス

合衆國公使ノ有スル裁判權ノ管轄ハ其區域日本帝國全部ニ亘リ而シテ或二三ノ場合ヲ除クノ外ハ皆控訴廳ニシテ領事ノ裁判ニ不服ナルトキハ控訴スルノ法廷ナリトス

領事廳ノ職員 Officer

合衆國ノ改正布告ニ基キ合衆國ノ領事裁判所ヲ組織スル職員ハ領事(總領事又ハ領事ヲ云)總領事又ハ領事ノ不在又ハ疾病等ノ時ニハ副總領事又ハ副領事及或特別ノ場合ニ在留ノ國民中ヨリ擧グル補助員ト定ム而シテ副總領事及副領事ハ總領事及領事ノ不在又ハ病氣等ノ時

英吉利法律講義録 1886(明治19年) 第1年級第3号(1886年10月2日発行)

ちMarshal

ニアラサレハ決シテ裁判權ヲ執行スルヲ得サルモノナリ

領事廳ノ附屬員ニシテ「マアシヤル」ト稱スル者アリ其職掌ハ執行官ト同一ニシテ合衆國ノ大統領之ヲ任スルモノナリ而シテ日本帝國駐箚合衆國公使又ハ日本帝國ノ各港ニ駐在スル領事ヨリ發布スル命令手續等ヲ實際ニ執行シテ其報告ヲナスハ「マアシヤル」官ノ負擔スル義務ナリトス而シテ本官ハ其職務ヲ執行スルニ當リ自ヲ代理「マアシヤル」典獄及副典獄等ヲ撰擧シテ自己ノ職掌ヲ補助セシムルヲ得ルト雖此輩カ職務上ノ行爲ニ關シテハ「マアシヤル」百ラ其責ニ任セサルヘカラス(改正布告第四千百十一條ヨリ第四千百十六條迄ヲ參觀スヘシ)

領事廳ニハ書記生アリ領事之ヲ命ス其掌ル所ノ職務ハ領事廳ノ印章及記錄ヲ保管シ裁判事件ノ書類ヲ整頓シ及證據物ヲ記錄スルニ在ルナリ且各領事廳ニハ譯官ヲ置キ證據物及書類ヲ和文又ハ英文ニ飜譯

狀師

アトーニース Attorneys

スルノ事務ニ從事セシムルナリ

狀師モ亦領事法廳ノ職員ナリ而シテ合衆國領事廳ニ於テ狀師タルコトヲ准許スルニハ他ノ合衆國領事廳ニ於テ以前狀師タリシコトノ證據ヲ提供スルヲ以テ足レリトシ又或ハ領事其適否ヲ試驗シタル後之ヲ許可スルコトアリ且合衆國ノ領事廳ニ於テ常ニ狀師タルノ權利ヲ得ルニハ必合衆國ノ人民ニシテ先合衆國政府ニ對シテ忠義ヲ盡スノ宣誓ヲ爲サヽルヘカラス此故ニ狀師ノ稱號ハ之ヲ外國人ニ付與スルヲ得ス然レトモ各國交際ノ友誼上ヨリ外國人ト雖其人ノ一身上ニ付不都合ナトキハ訴訟本人ニ代リ合衆國ノ領事廳ニ於テ狀師タルコトヲ許スナリ

附言

代言人ニ關スル合衆國ノ規則等ハ總テ英國ニ同シト雖唯其異ナル

英吉利法律講義録 1886(明治19年) 第1年級第3号(1886年10月2日発行)

所ハ英國ニ於テハ「バリスタア」ト「ソリシツタア」トヲ區別シ「ソリシツタア」ハ裁判所以外ニ於テ訴訟事件ヲ執リ「バリスタア」ハ法庭内ニ於テ訴訟事務ニ從事スルモノニシテ要スルニ「ソリシツタア」ハ訴訟事件ノ證據書類要領書等ヲ調製スルコトヲ司リ且法庭内ニ於テモ一切ノ書類等ヲ整頓シ「バリスタア」ヲ補佐スルモノナリ

「バリスタア」ハ重ニ法庭内ニ於テ訴訟辨論ヲ司ルモノナリ

合衆國ニ於テハ右ノ區別ナク代言人ヲ指シテ一般ニ「カウンセル」又ハ「ソリシツタア」ト稱シ渾テ一身ニテ英國ノ「バリスタア」ト「ソリシツタア」ノ司ル職務ヲ兼スルモノナリ

第三章　裁判管轄ノ權

合衆國ニ於テハ其改正布告ヲ以テ大日本帝國ニ駐在スル合衆國ノ公使及領事ハ日本帝國トノ通商條約ニヨリテ各自ニ委任サレタル權利

モ條約ニ牴觸セサル限リハ此權ヲ以テ公使及ヒ領事ノ職務ニ屬スルモノト定メタリ(改正布告第四千〇八十三條ヲ參觀スヘシ)

公使及ヒ領事ハ日本國在留ノ合衆國人民ニシテ罪ヲ犯シタルモノアル時ハ直チニ之ヲ告發審問シテ刑ヲ宣告シ且ツ其職務(公使領事ノ)ヲ執行スルニ必要ト認ムル一切ノ命令規則ヲ發布スルノ權ヲ有スルモノナリ(改正布告第四千〇八十四條ヲ參觀スヘシ)

民刑事件ノ裁判管轄權ハ日本帝國トノ條約ヲ實行スルニ必要且適當ナル合衆國ノ法律ニ隨テ之ヲ執行伸張スルモノニシテ其管轄權ハ苟モ條約ニ牴觸セサル限リハ日本國ニ在留スル合衆國人民一般ニ及スモノトス然リト雖モ右ノ法律ヲ適用スルヲ得サル場合又ハ相當ノ救正ヲ施スニ右ノ法律ニテハ不十分ナル場合ニ於テハ慣習法衡平法若クハ海上法ヲ適用シテ成文法ノ缺點ヲ補充スルモノトス然レトモ若シ又

合衆國人民ノ遵奉スヘキ法律ノ種類 Statutes.

慣習法衡平法海上法若クハ布告律ヲ以テスルモ適當ノ救正ヲ施ス能ハサル塲合ニ於テハ日本帝國駐箚ノ合衆國公使ハ特ニ命令ヲ發シテ右ノ不完全ナル所ヲ補充スルノ權ヲ有スルモノニシテ其命令ハ法律ト同一ノ効力ヲ有スルモノナリ(改正布告第四千〇八十六條ヲ參觀ススヘシ)

余ハ是ヨリ日本帝國ニ在留スル合衆國人民ノ遵奉セサルヘカラサル法律ヲ逐次ニ講述センニ先ツ第一ニ合衆國ノ布告律ヨリ始メント欲スルナリ而シテ其所謂合衆國ノ布告律トハ合衆國ノ憲法其憲法ニ基テ制定シタル聯邦布告及ヒ諸外國トノ條約ヲ指スナリ是等ノ法律ハ固ヨリ其部數モ大ニシテ且ツ公私ノ關係ニ適用シ得ル塲合實ニ少カラスト雖モ國民日々ノ生計上ニ現出スル無數ノ關係ニ就テ人民ノ行爲ヲ規定シ其權利ヲ保護スルニ足ルノ條款ナキハ是又タ疑ヲ容レサル所

慣習法 Common law

ナリ譬ヘハ一己人ノ行爲ニ關スルコト所有物ヲ移轉讓與スルコト親子及ヒ夫妻間ノ關係主人ト從僕又ハ後見人ト被後見人トノ關係其他信任委托又ハ無形人等ノ事ニ關シテハ一ノ正條アルヲ知ラス要スルニ此ノ如キコトハ皆ナ聯邦法律ノ範圍外ニ措キ全ク各州ノ適宜ニ任シタルモノナレハ余輩ハ此ノ點ニ至リテ此困難ニ陷ルモ如何トモナス能ハス如何トナレハ各州ノ法律ヲ參觀シテ此ノ困難ヲ逃レント欲スルモ各州ノ法律ハ最モ必要ナル點ニ關シテ一樣ナラス或事項ニ就キ甲州ニ於テ法律トナルモ乙州ニ於テハ全ク法律ニ背反スルモノトナスヲ以テナリ

却說是ヨリ慣習法衡平法及ヒ海上法ノ何物タルヲ講述センニ抑モ合衆國ノ慣習法ハ合衆國人民ノ認ムル如ク其源ヲ英國ニ發スルモノナルカ故ニ慣習法ノ定義如何ヲ知ラント欲セハ須ク英國ノ著書ニ就テ

衡平法は Law of Equity

研究セサルヘカラスブラクストーン氏ハ其著書法律註釋ノ緒言第三章ニ於テ慣習法ノ定義ヲ下シタルヲ見ルニ曰ク慣習法トハ不文律ニシテ法律上ノ格言及ヒ慣習ノ次序ナルコトハ諸裁判所ノ記錄判決例及ヒ太古ヨリ傳來スル法律大家ノ著書等ニ徵シテ判然タルモノニシテ其太古ヨリシテ全國一般慣レ行タル所ヨリ羈絆ノ効力ヲ生スルモノトセリ

初メ英國ノ人民カ今日合衆國ト稱スル米國ノ土地ニ移住スル時ニ方リテハ各自ラ保護スル爲メ共ニ英國ノ慣習法及ヒ成文律ヲ米國ニ携帶セシカ後英國ノ管制ヲ脫シテ獨立シ新ニ合衆國ヲ建ツルニ及ンテ右ノ法律中ニテ新政府ノ下ニ適用シ得ルモノハ盡ク之ヲ保存セシヲ以テ右法律ハ今日合衆國法律ノ基礎トナリタルナリ

衡平法モ亦タ英國ヨリ輸入シタルモノナリ抑ヒ衡平法ナルモノハ裁判官

英吉利法律講義録 1886(明治19年) 第1年級第6号(1886年10月23日発行)

Lord Chancellor.

カ由テ以テ慣習法及ヒ成文法ヲ解釋シ其道理精神及ヒ意思ヲ明確ナラシメ慣習法及ヒ成文法ヲ以テ救正ヲ施ス能ハサル塲合ニ救正ヲ施シ其缺點ヲ補充スルノ規則ナリ(ブラクストーン氏法律註釋緒言)蓋シ理論上ヨリ視ルトキハ衡平法ハ固ヨリ此クノ如クナリシト雖トモ其實英國ノ衡平法廳ハ一定ノ規則ト先例トニ由リテ管制セラレタルヲ以テ或ハ法律上ニ背理的ノ困難ヲ釀成スルニ至レリ且ツ此衡平法ノ原則ヲ探究セント欲セハ慣習法ト均シク裁判所ノ判決例ト著書ニ據ルニ非レハ決シテ其目的ヲ達スルコト能ハサルナリ

英國ニ於テ普通法ト衡平法ト其管轄ヲ分離シタルハ一千三百七十七年第二世リチヤルド王ノ時代或貧民カ普通法ノ保護ニ依テ救正ヲ得ル能ハサル塲合ニ國王ノ代理者タル大法官(ロルト、チヤンセロール)ニ控訴シテ救正ヲ仰キタルニ始リ其主管スル所ハ質入、信任、委托其他信

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第6号(1886年10月23日発行)

海上法 ほLaw of Admiralty

任上ノ義務ニ關スル事ニシテ法律上ノ救正ヲ與フル能ハサル場合ニハ此法ニ依テ以テ義務履行ヲ命シ又ハ財産所有權ヲ移轉セシムルナリ且ツ衡平法ハ普通法ニ比スレハ一層大ナル救正ヲ與フルモノニシテ例ヘハ契約違背ニ關スル普通法上ノ救正ハ單ニ金圓ノ賠償ヲ受ケ得ルニ止マルト雖トモ衡平法ニテハ違約者ヲシテ契約テ履行セシムルコトアリ又普通法上ニテハ義務者カ既ニ義務ヲ破リタル後ニアラサレハ救正ヲ施ス能ハサルモ衡平法ニテハ到底回復スヘカラサル損害ヲ生スヘキ場合ニハ未タ義務ヲ破ラサル前ニ之ヲ破ルコトヲ禁シテ以テ損害ヲ豫防スル等ノ如シ

合衆國ノ領事廳ニ於テ海上法ヲ施行スルハ單ニ海上契約ニ關スル事ニ限ルナリ而シテ海上法モ亦他ノ法律ト均シク英國ヨリ來レリト雖モ其源ハ遠ク歐洲大陸ノ民法ヨリ發シタルモノニシテ其初メハ極メ

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第6号(1886年10月23日発行)

テ簡單ナリシモ今日ニ至リテハ數百年來ノ布告ト海上法裁判所ノ判決トヲ積ミ一大法典ヲ成スニ至レリ且ツ他ノ法律ニ比シテ海上法ノ著名ナル點ハ訴訟手續ノ簡單ニシテ其効力ノ迅速且ツ著大ナルコト卽チ是レナリ

日本帝國駐箚ノ合衆國公使ハ慣習法衡平法及ヒ海上法ノ不完全ナル點ヲ補充スル爲メニ發布スル命令及ヒ規則ハ領事裁判廳ノ活働中ニ最モ緊要ナル部分ヲ占ムルモノニシテ其最モ大ナルモノハ卽チ訴訟手續ナルヲ以テ余ハ訴訟法ヲ講スル時ニ之ヲ詳述セント欲ス

其他國際法ノ如キモ亦タ領事裁判廳ノ手續ニ大關係ヲ有スルモノニシテ其原則及ヒ實際ノ活用如何ヲ知ラント欲セハ必ス先ツ諸外國トノ條約書裁判所ノ判決各國間ノ往復書翰及ヒ法律大家ノ論說等ニ就テ之ヲ研究セサルヘカラス而シテ此國際法ノ問題ハ自然余ヲシテ日本

日本ノ法律ヲ合衆國民ニ適用スル區域

帝國ノ法律ヲ日本帝國在留ノ合衆國人民ニ適用スルノ如何ヲ論述セサルヲ得サルニ至ラシムルナリ

日本帝國ト合衆國トノ條約ニ基キ合衆國民ハ日本帝國ノ或部分ニ居留スルヲ得ルト雖モ其居留ノ權ヲ得タリトテ必スシモ日本帝國臣民ト同樣ノ權利ヲ有スルモノニアラサルコトハ合衆國政府ノ認證スル所ナリ(一千八百七十六年ノ外交史第三百六十七葉參觀)且ツ日本帝國ノ法律ヲ遵奉スルノ義務ヲ負擔セサルコトハ一千八百七十五年十二月神奈川駐在合衆國總領事ノ判決ニ徵スルモ亦タ明ナリ又一千八百七十四年ノ外交史第六百五十八葉ヲ閲スルニ合衆國政府ハ右ト同一ノ疑問ヲ判決スルニ當リ大日本帝國政府ハ他區ノ干渉ヲ受クルコトナク帝國及ヒ帝國臣民ノ安寧ヲ保護スル爲ノ法律ヲ制定頒布スルノ權ヲ有シ日本帝國內ニ在留スル合衆國ノ人民ハ日本國民ト均シク右ノ法

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第6号(1886年10月23日発行)

律ヲ遵奉スヘキ義務ヲ負擔スルコトヲ認定シタリ

日本帝國ノ法律ヲ日本在留ノ合衆國人民ニ對シテ實行シ且ツ之ヲ犯シタル者ニ刑罰ヲ蒙ラシムルコトニ就テハ兩國間ノ條約ニ基キ合衆國人民ハ日本駐箚合衆國領事廳ニ於テ其本國ノ法律ニ隨テ審問ヲ受ケ合衆國ノ法律ニ明條ナキ刑罰ヲ受ケサルノ權利ヲ有スルモノニシテ苟モ日本政府ニ於テ右等ノ特權ヲ認諾遵守スル限リハ日本政府カ其國民ノ利益安寧ヲ保護スルニ必要ト認ムル法律ヲ制定スルコトニ關シ合衆國政府ハ毫モ之ニ干渉スルヲ得サル者ナリ

次ニ余ハ日本駐箚ノ合衆國公使及ヒ領事廳カ司法權ヲ施行シ得ル區域ニ就テ一言セサルヲ得サルナリ

抑モ合衆國ノ公使及ヒ領事廳カ有スル司法管轄權ハ日本帝國內ニ限ルヲ以テ海上ニ於ケル犯罪及ヒ海上裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ヲ裁

英吉利法律講義録 1886(明治19年) 第1年級第8号(1886年11月6日発行)

合衆國公使ノ裁判權

補助員及ヒ其之ヲいAssociate

判スルノ權ヲ有セサルモノニシテ例ヘハ合衆國ニ於テ罪ヲ犯シタル者其刑罰ヲ逃レテ日本帝國ニ渡來スルモ合衆國ノ領事ハ之ヲ逮捕スルコトヲ得サルモノトス

合衆國公使ノ有スル司法權ハ控訴權ニシテ謀殺犯日本政府ニ對スル暴徒及ヒ領事自ラ關係スル事件又ハ領事自ラ證人ト爲ルヘキ事件ヲ除クノ外總テ領事ノ裁判ニ不服ノ時控訴スル所トス(改正布告第四千百〇九條ヲ參觀スヘシ)

百弗以下ノ罰金又ハ六十日以内ノ禁錮ニ處スヘキ犯罪ノ場合ニ於テハ領事官一人ニテ裁判スルモ其判決ハ終審裁判ト爲ルモノトス(改正布告第四千百〇五條ヲ參照スヘシ)

領事ニ於テ法律上頗ル錯雜ノ疑問ヲ包含スル事件ト認ムル時又ハ布告ヲ以テ定メタル刑罰ヨリモ一層嚴重ナル刑ヲ施スヘキモノト認ム

撰抜スル方法

ル場合ニハ四人以下(死刑ノ場合ニハ四人以上)ノ補助員ヲ撰抜シテ其裁判事務ニ參與セシムル者トス而シテ此補助員ヲ毎年一月合衆國公使ノ認可ヲ經テ人名簿ニ登錄シタル合衆國人民中ヨリ撰抜スルモノニシテ品行方正能ク其任ニ堪ユヘキ人物ナラサルヘカラス斯ノ如クシテ撰擇セラレタル補助員ハ領事廳ノ判決錄ニ各自ノ意見ヲ登錄シ之ニ記名調印スルト雖其裁判ヲ言渡ス者ハ即チ領事ナリ而シテ領事ト補助員ト互ニ其意見ヲ同スルトキハ死刑罰金百弗以上及禁錮六十日以上ノ刑ニ該當スル場合ヲ除ク外其裁判ハ皆終審裁判トナルナリ然レトモ補助員ノ一人ト領事ト其意見ヲ異ニスル場合ニ於テハ意見書及ヒ證據物ヲ添ヘテ合衆國公使ノ裁判ヲ仰クモノトス然ル時ハ公使自ラ之ヲ裁判スルコトアリ或ハ裁判ノ手續ヲ示シテ再ヒ之ヲ領事廳ニ移シテ裁判セシムルナリ(改正布告第四千百〇六條ヲ參觀スヘシ)

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第8号(1886年11月6日発行)

領事ノ裁判權

以上開陳セシ所ハ刑事裁判ノ手續ナレハ是レヨリ民事裁判ノ手續ニ就キ聊カ辯スル所アラント欲ス

日本帝國ノ各港ニ在留スル合衆國領事ハ皆其管轄内ニ起ル所ノ民事訴訟ヲ裁判スルノ權ヲ有スルモノニシテ損害要償等ノ訴訟ニシテ金額五百弗ヲ超過セサル場合ニハ補助員ヲ要セス領事一人ニテ裁判スルモ其裁判ハ終審ノ判決トナルナリ然レトモ若シ領事ニ於テ法律上頗ル困難ナル事件ト認ムルカ又ハ請求ノ金額五百弗ヲ超過スル場合ニハ刑事ノ場合ト同一ノ手續ヲ以テ其港内ニ在留スル合衆國人民中ヨリ三名以下ノ補助員ヲ撰ヒ其裁判事件ニ參與セシムルモノトス而シテ補助員ハ刑事ノ場合ト均シク各自ノ意見ヲ判決錄ニ登錄シ之ニ記名調印スルト雖判決ヲ與フルモノハ卽チ領事ナリ且領事ト補助員ト其意見ヲ同スルトキハ其判決ハ固ヨリ終審ノ効力ヲ有スルト雖モ

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第8号(1886年11月6日発行)

民事訴訟手續

ろCivil proceeding.

若シ互ニ其意見ヲ異ニスルトキハ領事又ハ補助員ヨリ公使ニ對シテ控訴スルヲ得ルナリ然レトモ若シ正當ノ手續ヲ以テ控訴ヲ爲サヽルトキハ領事ノ判決終審ノ裁判トナルモノトス(改正布告第四千百〇七條ヲ參觀スヘシ)

第四章　訴訟法ろ

余ハ是レヨリ合衆國公使及ヒ領事廳ノ民刑訴訟法ヲ講述スヘシト雖モ先ツ民事訟訴法ヨリ講セント欲スルナリ

普通法ニ依レハ民事訟訴法ニ數種アリト雖モ合衆國ノ公使及ヒ領事廳ニ於ケル訟訴法ハ公使ヨリ發布シタル規則ヲ以テ之ヲ一定セシメ訟訴ヲ提起スルモノヲ指シテ原告人ト云ヒ其反對ノ地位ニ立ツ者ヲ被告人ト稱スルナリ

總テ訟訴ヲ起スニハ原告人先ツ訴狀二通ヲ調製シ本人自ラ或ハ其代

理者又ハ代言人ヲシテ之ヲ公使館又ハ領事廳ニ捧呈セシムルモノニシテ其訴狀ハ必ス英語ヲ以テ記載セサルヘカラス若シ日本語ヲ以テ綴リタル訴狀ヲ提出スルトキハ必ス英譯ノ訴狀ヲ添附スルヲ要スルナリ今假リニ神奈川駐箚ノ合衆國總領事廳ニ一ノ訴狀ヲ提起スルモノトセハ其訴狀ノ式ハ大畧左ノ如クナルヘシ

日本帝國神奈川駐箚合衆國總領事閣下ノ法庭ニ於テ

年月日

原告人　某

被告人　某

右原告人謹テ本訴ヲ總領事閣下ノ法庭ニ提出ス

第一　原告人某ハ何國ノ臣民ニシテ現ニ何國何港ニ居留スルモノナリ

訴狀ノ式

第二　被告人某ハ亞米利加合衆國ノ人民ニシテ現ニ何國何港ニ居留シ總領事閣下法庭ノ管轄内ニ屬スルモノナリ

第三　（茲ニ本訴ノ理由云々ヲ詳ニ陳述シ）、、、、、、、、、、、、、

右ノ理由ナルヲ以テ仰キ願クハ總領事閣下原告人ノ請求ヲ滿足セシメ且訴訟入費其他總テ被告人ニ於テ支辨致ス樣御裁判アランコトヲ請願ス

原告人　某印

一千八百八十何年何月何日神奈川ニ於テ余ノ目前ニ宣誓署名シタルモノナリ

總領事　某

領事廳印

原告人若シ合衆國ノ人民ニ非ルトキハ領事廳ハ其原告人ヲシテ訴狀ヲ呈スルト同時ニ豫メ保證金若干額又ハ他ノ抵當物ヲ出サシメ置キ原告人ノ敗訴シタルトキ又ハ其訴狀ヲ棄却スル塲合ニ訴訟入費ヲ拂ハシムル者トス原告人カ合衆國ノ人民ナルトキハ勿論右ノ保證抵當ヲ要セス然レトモ在留藉ナキ者資產ナキ者被告間ニ嫌疑アルトキ又ハ領事廳ニ於テ保證抵當ヲ出サシムルノ必要ヲ認ムル塲合ニハ合衆國ノ人民ト雖モ保證抵當ヲ出サヽルヘカラス然レトモ貧民タルノ故ヲ以テ其訴訟ヲ拒絕スルコト能ハサルカ合衆國ノ規則ナルヲ以テ原告ニ於テ訴訟ヲ提起スルニ充分ノ理由アルモ實際貧窮ニシテ保證抵當ヲ出ス能ハサル塲合ニハ能ク其情實ヲ陳述セシメ貧民訴訟手續ニ依リ起訴スルコトヲ許スナリ

訴狀ヲ領事廳ニ捧呈スルトキハ書記ハ其受理ノ月日ヲ附シテ之ヲ法

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第8号(1886年11月6日発行)

召喚狀

召喚狀送達ノ手續

廳ノ記錄ニ載セ原告ノ請求アレハ直チニ被告ニ對シテ召喚狀ヲ發スルコトアリ

召喚狀ニハ裁判所ノ印章ヲ押捺シ原告ヨリ呈出シタル訴狀ノ寫ト共ニ之ヲ被告ニ送達シ且召喚狀ニハ裁判所並ニ原被告ノ名稱原告請求ノ性質ヲ記載シ一定ノ日數間ニ出庭ノ上答辯スヘキコトヲ被告ニ命スルモノナリ而シテ被告カ出庭答辯スヘキ一定ノ日數ハ被告若シ其裁判所所在ノ地ニ於テ召喚狀ヲ請取リタルトキハ三日以內裁判所所在ノ地ニアラサル日本國內ノ或場所ニ於テ請取リタルトキハ二十日以內日本帝國以外ニ於テ請取リタルトキハ四十日以內トス

召喚狀ハ「マーシヤル」官或ハ其代理者之ヲ直接ニ被告人ニ送達スルモノニシテ被告人若シ未丁年者ナルカ又ハ癲狂者ナルトキハ其父母若クハ財產管理人ニ召喚狀ヲ送達スルモノトシ被告人若シ日本帝國外

ニ居住スルカ或ハ日本帝國ヲ去リタルカ又ハ搜索ヲ遂クルモ日本帝國内ニ於テ被告人ヲ發見スル能ハサルトキ又ハ召喚狀ノ送達ヲ避クル爲メ被告人遁逃シタルトキハ其訴訟ノ起リタル場所ニ於テ召喚狀ノ全部ヲ毎週一回宛三週以上新聞紙上ニ公布シテ以テ送達シタルモノトス被告人若シ召喚狀ニ定示スル日數内ニ出庭シテ答辯書ヲ捧呈セサルトキハ原告人ハ裁判所ニ對シテ欠席裁判ヲ請求シ得ル者トス然レトモ其之ヲ請求スルニハ原告ニ於テ先ツ欠席裁判ヲ請求シ得ルニ足ル充分ノ證據ヲ提供スルニ非レハ裁判官ハ欠席裁判ヲ與ヘサルモノトス

之ニ反シテ被告人若シ召喚狀ニ定示スル日數内ニ出庭答辯スルモノトセハ被告人ハ原告人ノ請求ヲ拒絶又ハ承認シテ更ニ事實ヲ陳述シ再ヒ原告人ノ答辯ヲ要スル如キ答辯書ヲ捧呈シ又ハ自認避責ノ答辯

答辯書式

書ヲ提出スルヲ得ルナリ而シテ被告人カ呈出スル答辯書ノ式ハ大畧左ノ如クナルヘシ

大日本帝國神奈川駐剳合衆國總領事閣下ノ法庭ニ於テ

一千八百何十何年何月何日

原告人　某

被告人　某

右被告人某謹テ答辯書ヲ總領事閣下ノ法庭ニ提出ス

第一　被告人ヨリ捧呈シタル訴狀ノ第一及ヒ第二項ハ原告人カ陳述スル通リニシテ被告人ノ認ムル所ナリ

第二　玆ニ原告人ノ請求ニ應スル能ハサル理由ノ云々ヲ詳カニ陳述シ、、、、、、、、、、、、、、

右ノ理由ナルヲ以テ仰キ願クハ原告人ノ訴狀ヲ棄却セラレ

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第8号(1886年11月6日発行)

訴訟人費モ原告人ニ於テ支辨スヘキ裁判ヲ下サレンコトヲ請願ス云々

被告人ノ答辯書中若シ原告人ノ請求ニ對スル反求ヲ記載スルトキハ其答辯書ハ訴狀ト均シク宣誓署名ヲ要スルモノトス

原告人ノ訴狀ニ對スル横揖答辯式ハ左ノ如クナルヘシ

大日本帝國神奈川駐箚合衆國總領事閣下ノ法庭ニ於テ

一千八百何十何年何月何日

原告人　某

被告人　某

横揖答辯書式

demurrerは デムーラー

右被告人某謹テ左ノ理由ニ依リ本訴ニ對シ横揖答辯書ヲ捧呈ス

一　當總領事閣下ノ法庭ハ被告人ヲ管轄スルノ權ヲ有セサルモノナリ(例ヘハ被告人ハ合衆國ノ人民ニ非サルヲ以テ合衆國總領

事法庭ノ管轄ニ屬スヘキ者ニ非ス故ニ其裁判ヲ受クルノ理ナシト云フカ如シ)或ハ

二　當總領事閣下ノ法庭ハ本訴ヲ裁判スルノ管轄權ヲ有セサルモノナリ(例ヘハ訴訟ノ原因ハ長崎ニ於テ起リタルヲ神奈川駐劄ノ總領事ニ出訴シタルカ如キ場合ニ管轄違ノ申立ヲ爲シ總領事ニ於テ本訴ヲ裁判スルノ權ナキヲ主張スルヲ云フ)或ハ

三　原告人ハ訴訟ヲ提起スヘキ法律上ノ資格ヲ有セサルモノナリ(例ヘハ原告人ハ未丁年者若クハ癲狂者ナルヲ以テ法律上原告人トナルノ資格ヲ有セサル者ナリ故ニ被告人ハ本訴ニ對シテハ答辯ヲ附スルノ義務ナシト云ヘルカ如シ)或ハ

四　本訴ノ對手人不完全ナルヲ以テ答辯ヲ附セス云々(例ヘハ原告人トナルヘキ人三名アル場合ニ其内ノ二人原告人トナリテ他

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第8号(1886年11月6日発行)

ノ一人ヲ脱シ三人ヲ被告トナスヘキ場合ニ一人ヲ被告トシテ他ノ二人ヲ脱漏スルトキノ如シ)或ハ

五　原告人ハ訴訟ノ原因ヲ混合スルヲ以テ答辯ヲ附セス云々(例ヘハ損害要償ノ訴訟ト貸金催促ノ訴訟トヲ混同シテ一件ノ訴訟ヲ提起シタルカ如キ場合ヲ云フ)或ハ

六　原告人ハ其訴狀ニ起訴ノ原因ヲ記載セサルヲ以テ答辯ヲ附セス云々(例ヘハ名譽回復ノ訴狀ニ名譽ヲ毀損セラレタルコトヲ詳カニ記載セサル時ノ如シ)

右ノ理由ナルヲ以テ原告人ノ請求ハ排斥セラレ訴訟入費モ原告人ニ於テ支辨スル樣裁判アランコトヲ請願ス云々

横揖答辯書ニハ被告人自ラ又ハ其代言人記名調印セサルヘカラスト雖モ宣誓ヲ要セサルナリ

茲ニ宣誓ノ事ニ就テ一言センニ宣誓ノ式ニ種々アリト雖モ左ニ掲クル三種以ヲテ最モ普通ノ式トス

第一　經典ヲ捧ケテ眞實ヲ陳述スルコトヲ證シ畢テ後チ經典ニ接吻スルヲ以テ典式トスル者

第二　右手ヲ擧ケテ以テ眞實ヲ陳述スルコトヲ證スル式

第三　直立シテ眞實ヲ陳述スルコトヲ表スル式

右三種ノ式ハ其方法各異ナリト雖モ其効力ハ何レモ同一ナルモノトス而シテ宣誓者若シ詐テ眞實ヲ陳述セサル時ハ謾誓ノ罪ヲ以テ罰スルナリ

却説原告人モ亦被告人ノ答辯ニ對シテ横揖答辯ヲ爲シ得ルナリ然レトモ原告人ハ被告人ノ答辯ニ對シ必スシモ一々辯駁スルヲ要セス如何トナレハ原告ニ於テ特ニ被告ノ答辯ヲ認ムルニ非レハ被告ノ答辯

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第9号(1886年11月13日発行)

ハ總テ原告ノ承認セサルモノト爲スヲ以テナリ

原被兩造相互ニ辨論書ヲ提出シ事實又ハ法律ノ論點ニ達スル(一方ニ於テハ然リト云ヒ他ノ一方ニ於テハ然ラスト論スル點ニ達スルヲ云フ)トキハ裁判官ハ時日ヲ期シテ對審ヲ開キ判決ヲ與フルナリ然レトモ若シ對審ヲ開ク以前ニ於テ原被雙方示談又ハ中裁ヲ承諾シ解訟ヲ請フトキハ直ニ之ヲ許スモノトス蓋シ文明ノ諸國ニ於テハ大ニ示談中裁ヲ奬勵シ以テ無用ノ費額ヲ節減スルノ風アリ現ニ合衆國ノ如キハ法律ヲ以テ訴訟人ヲシテ示談中裁セシムルハ公使及ヒ領事ノ義務ト定メタリ(改正布告第四千〇九十八條ヲ參觀スヘシ)

附言被告人答辨書ヲ提出スルニ充分ノ理由ヲ有セサルトキハ總領事ハ之ニ書翰ヲ贈リテ中裁ヲ勸メ以テ裁判費用ヲ節省セシムルコトアリ蓋シ總領事ヨリ書翰ヲ贈ルハ總領事ノ資格ヲ以テスルニ非ス

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第9号(1886年11月13日発行)

一己人ノ資格ヲ以テ中裁ヲ勸ムルナリ

民事訴訟ニテハ領事ハ必スシモ補助員ヲ徵集スルヲ要セスト雖モ金額五百弗以上ノ事件ニシテ欠席裁判ヲ與フル塲合ニハ必ス補助員ヲ要スルナリ(領事廳規則第六十一條ヲ參觀スヘシ)然レトモ事實又ハ法律上頗ル錯雜困難ナル疑問ヲ包含スル乎若クハ重大ノ關係ヲ有スル事件アルトキハ補助員ヲ徵集スルヲ通例トス

右ノ補助員ハ毎年一月領事カ合衆國公使ノ認可ヲ經テ調製スル人名簿ヨリ撰擧スルモノニシテ其補助員トナルニハ年齡二十一歲以上ノ合衆國人民ニシテ領事ノ管轄地内ニ居住シ品行方正能ク其任ニ堪ユル人ナラサルヘカラス

補助員ヲ撰定スル方法ハ右ノ人名簿ニ記載シアル人ノ名刺ヲ入レタル筐ヲ法庭ニ持出シ原被兩造ノ目前ニ於テ領事又ハ其書記右ノ筐中

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第9号(1886年11月13日発行)

補助員ヲ拒否スルノ理由

ヨリ四個以下ノ名刺ヲ引出シテ之ヲ原被告ニ示シタル上補助員ト定ムルナリ而シテ原告又ハ被告ハ左ニ記載スル理由ヲ述ヘ充分ノ證據ヲ提供スルトキハ其引出サレタル人ノ全體又ハ一人ニ對シ補助員タルコトヲ拒ミ得ルモノトス其所謂理由ハ卽チ左ニ

第一今補助員ニ撰定セラレントスル人カ原告又ハ被告ニ對シテ血緣又ハ婚緣上三等親以内ノ關係ヲ有スル時

第二補助員タルヘキ人カ原告又ハ被告ニ對シ後見人又ハ被後見人主人又ハ從僕雇主又ハ被雇人本人又ハ代理人ノ關係ヲ有シ或ハ其訴訟事件ニ就キ原告又ハ被告人ノ保證人ナル時若クハ原告又ハ被告ト組合商業ヲ爲シ居ル人ナル時

第三補助員タルヘキ人カ以前原被告間ニ起リタル本訴ト同一ノ事件ニ就キ補助員又ハ保證人トナリタルカ若クハ補助員又ハ保證人

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第9号(1886年11月13日発行)

トナリテ不適當ノ意見ヲ附シタル時

第四補助員ニ撰定セラレントスル人カ原告又ハ被告ニ對シ宿怨若ク
ハ愛憎ノ念ヲ抱キ爲メニ公平ナル意見ヲ附スル能ハサルノ恐レ
アル時(領事廳規則第六十六、七、八條ヲ參觀スヘシ)

原被告ヨリ此ノ如キ理由ヲ陳述シテ補助員ヲ撰定スルコトヲ拒ムトキハ裁判官ハ更ラニ筐中ヨリ他ノ名刺ヲ引出シテ之ヲ原被告ニ示シ原被告ニ於テ滿足スル補助員ヲ撰定スルナリ

補助員ヲ徵集スル時ニハ證人ヲ召喚スル如ク召喚狀ヲ發シマーシヤル官ヲシテ之ヲ送達セシム而シテ召喚狀ヲ請取リタル補助員若シ正當ノ理由ナクシテ出庭セサル時ハ法庭侮辱ノ罪ヲ以テ論シ禁錮及ヒ罰金ノ刑ニ處スルモノトス

附言證人召喚狀ト補助員召喚狀ト異ナル所ハ證人ノ召喚狀ニハ原

告某ヨリ被告某ニ對スル某事件ニ付キ何々ヲ證明スル爲メ出庭スヘシト記スレトモ補助員ノ召喚狀ニハ某事件ニ付補助員トシテ出庭スヘシト記スルモノニシテ其他ハ總テ同一ナリトス

證人ヲ召喚スルノ手續

原被告ニ於テ證人ノ召喚ヲ要スル時ニ對審前ニ豫メ其證人トシテ召喚セント欲スル人ノ名刺ヲ領事廳ノ書記ニ呈スルモノトス而シテ其證人タルヘキ人合衆國ノ人民ニシテ領事廳ヲ距ル三十英里以内ニ住居スルトキハ領事廳ハ直ニ證人召喚狀ヲ發シマアシアル官ヲシテ之ヲ送達セシム而シテ召喚ヲ受ケタル證人若シ正當ノ理由ナクシテ出庭セサルトキハ法庭侮辱ノ罪ヲ以テ論シ禁錮及ヒ罰金ノ刑ニ處スルモノトス

日本人ヲ證人ニ召喚スル手續

日本帝國ノ人民ヲ證人トシテ召喚ヲ要スルトキニハ領事ヨリ日本政府ニ照會シテ出庭セシメ其他ノ外國人ヲ證人トシテ召喚スル場合ニ

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第9号(1886年11月13日発行)

モ亦其本國ヨリ日本帝國ニ派遣スル公使又ハ領事ニ照介シテ出庭セシムルナリ

證人及ヒ補助員ノ旅費日當

補助員及ヒ證人ヲ召喚シテ出庭セシムル時ハ往復旅費並ニ滯在日當ヲ支給スルモノニシテ證人ノ滯在費ハ一日ニ一弗半旅費ハ一英里ニ付金十五錢ノ割ニテ補助員ニハ滯在費ト旅費ヲ合セテ一日ニ付三弗六十錢ヲ支給スルモノトス而シテ是等ノ費用ハ總テ訴訟落着ノ際ニ敗訴者ヨリ支辨セシムルナリ

上來陳述セシ如ク原被兩造ニ於テ補助員及ヒ證人ノ召喚等總テ豫備ノ手續ヲ終ルトキハ原告人又ハ其代言人ニ於テ先ツ辯論ヲ始メ被告人ノ方ニ於テ横揖答辯ヲ爲サヽルトキハ原告ハ直ニ其證人ヲ訊問シ然ル後被告人又ハ其代言人再ヒ之ヲ訊問スルモノトス

斯ノ如クシテ原告證人ノ訊問ヲ終ルトキハ原告ハ直ニ辯論ヲ附シテ

其訴訟ヲ裁判官ノ判定ニ任スルナリ

次ニ被告人ハ其證人ヲ呼出シテ之ヲ訊問シ續テ原告人又ハ其代言人再ヒ之ヲ訊問シ然ル後被告人辯論ヲ附シテ其訴件ヲ判官ノ判決ニ任スルトキハ原告又之ニ對シテ答辯ヲ附シ全ク其局ヲ結フナリ蓋シ辯論ヲ始終スルノ權利ハ原告ニ與フルカ通例ナリト雖モ被告ニ於テ横揖答辯ヲ爲ストキハ辯論ヲ始終スルノ權被告ニ在リ要スルニ辯論始終ノ權モ擧證ノ責任ト均シク常ニ積極論者ニ在ル者トス

以上辯論終局ニ至ル迄ノ手續ヲ述ヘタレハ次ニ裁判言渡ノ事ヲ陳述スルヲ以テ講義ノ順序ナリトスト雖トモ余ハ之ヲ講スル前ニ於テ合衆國ノ領事廳ニ於テ認定シタル證據法ノ最モ必要ナル二三ノ規則ニ就テ一言セント欲スルナリ

凡ソ證人トシテ召喚サレタル人ハ皆法庭ニ於テ事實ヲ證明スル前ニ

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第9号(1886年11月13日発行)

先ツ自己ノ陳述スル所ノモノハ皆眞實ナルコトニシテ毫モ虛妄ナラサルコトノ宣誓ヲナサヽルヘカラス(領事廳規則第百七十七號ヲ參觀スヘシ)

原被兩造ハ各自ノ爲メニ自ラ證明スルヲ得ルハ勿論反對者ノ證人ト雖トモ之ヲ訊問スルヲ得ルモノニシテ原告人若シ被告人ノ證人ヲ訊問スルトキハ被告人モ亦原告人ノ證人ヲ訊問シテ辯駁ヲ試ミ得ルナリ(領事廳改正規則第百六十八條ヲ參觀スヘシ)

凡ソ證人トシテ召喚サレタルモノハ皆論點事實ニ對シテ答辯ヲ與ヘ其答辯ヲ與ヘタル爲メ證人自ラ責任ヲ負擔セサルヲ得サル場合ニ至ルモ之ヲ以テ其答辯ノ責ヲ辭スルヲ得スト雖モ答辯ヲ與ヘタル爲メ自ラ重罪ノ刑ニ觸ルヽノ傾向アリ又ハ直接ニ自己ノ榮譽ヲ毀損スルノ恐レアルトキハ答辯ヲ附スルヲ要セス然レトモ時宜ニ依リ論點事

實ニ對シテ右等ノ答辯ヲ必要トスルトキハ之ヲ辭スルヲ得サルモノトス(領事廳規則第百六十三條ヲ參觀スヘシ)

今左ニ記載スルモノハ證人トナリテ法庭ニ出テ事實ヲ證明スルヲ得サルモノトス

證人タルヲ得サル人

一　夫ハ其妻ノ證人タルコトヲ得ス

二　妻ハ其夫ノ證人タルコトヲ得ス

三　瘋癲白痴者

四　譌誓又ハ僞證ノ罪ヲ犯シタル者賄賂ヲ收メテ證據物ノ隱匿又ハ湮滅セシメタルモノ證人ヲ遁逃セシメ又ハ他人ヲ罪ニ陷レント徒黨シタル者他人ヲ煽動シテ訴訟ヲ起サシメント徒黨シタル者

五　十四歳以下ノ幼者但シ十四歳以下ノ少年ト雖モ證人トナルニ

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第9号(1886年11月13日発行)

相當ノ智識ヲ有シ能ク宣誓ノ性質及ヒ結果如何ヲ理會スルコトヲ法廷ニ對シテ證明スル時ハ證人トナルヲ得然レトモ十四歳未滿ノ少年ハ法律上一般ニ證人タルノ能力ヲ有セサルモノト推測スルナリ(グリーンリーフ證據法卷ノ一第三編第二章ヲ參觀スヘシ)

證據ノ性質

原被兩造ヨリ提供スル證據ハ勿論左ニ記載スル普通法ノ規則ニ遵ハサルヘカラス

第一訴訟ノ論點ニ對シ證効ヲ有スルモノナラサルヘカラス

第二論點ノ大體ヲ證明スルヲ以テ足レリトス

附言右ノ二規則ヲ設ケテヨリ以來ハ論點事實ニ對シテ必要ナラサル證據ヲ妄リニ提供スルノ弊害ヲ脫却スルニ至レリ

第三擧證ノ責任ハ常ニ固言者ニ在ルモノトス

英吉利法律講義録 1886(明治19年) 第1年級第9号(1886年11月13日発行)

第四論點事實ニ對シ直接ノ關係ヲ有スル最モ善良ナル證據ハ必ス提出セサルヘカラス例ヘハ貸金催促ノ訴訟ニ借用證書ノ本書ヲ提供スルノ類卽チ是ナリ

凡ソ證人トナリテ事實ヲ證明スルニハ必ス自身ニ聞知シタル事ニ非サレハ其効力ナキモノニシテ假令十分信ヲ置ニク足ル人ヨリ聞キタル事ト雖モ傳聞ハ二三ノ場合ヲ除クノ外總テ無効ノモノトス

他人ノ依賴ヲ受ケタル代言人又ハ代人等カ其依賴者ヨリ領收シタル書類書翰其他總テ代言人又ハ代人ノ資格ヲ以テ依賴ヲ受ケタル事ニ關シテハ强テ代言人ヲシテ之ヲ他ニ報道セシムルヲ得サルカ一般普通ノ規則ナリ

夫妻ノ間ニハ報道ノ特許アルカ故ニ離婚後又ハ夫妻ノ內一人死去ノ後ト雖モ離婚前又ハ存生中相互ニ吐露シタル事ハ强テ之ヲ他ニ報道

セシムルヲ得サルナリ

證書ノ文字ヲ說明スル爲メニハ口頭ノ證據ヲ許スト雖モ之ヲ以テ證書ノ文字ヲ變換若クハ反對セシムルヲ得ス例ヘハ證書ノ文言不明瞭ニシテ解シ難キ所アルトキハ其不明瞭ナル部分ノミ口頭ノ陳述ヲ以テ證明シ得ルト雖モ之ヲ變換增減スルヲ得サルカ如シ

凡ソ人ハ皆其行爲ヨリ生スル自然ノ結果如何ヲ豫認スルモノト推測シ苟モ證書面ニ署名シタルモノハ皆法律上其責ニ任セサルヲ得ス自白又ハ自己ト利害心ヲ共ニスル人ニ對スル首白ハ自己又ハ自己ト利害心ヲ共ニスル人ニ對シ證據トシテ之ヲ採用スルヲ得組合員ノ一人カ他ノ組合員ニ對シテ與ヘタル首白ハ其人ニ對シテ證據ノ効力ヲ有シ代言人ノ首白ハ其訴訟事件ノ依賴者ニ對シテ證據タルノ効力ヲ有スルモノナリ

死去ノ推測

凡ソ人ヲ捜索シテ七年間ヲ經過スルモ其踪跡ヲ詳ニスル能ハサルトキハ其人ハ既ニ死去シタルモノト推測ス故ニ此ノ場合ニ於テ若シ其人ノ生存スルコトヲ主張スルモノアレハ主張者ニ於テ其生存ノ證據ヲ提供セサルヘカラス

證人訊問ノ方法

證人ヲ訊問スルニ當リ誘導ノ問ヲ發スル能ハサルハ一般ノ規則ニシテ譬ヘハ訊問者ニ於テ得ント欲スル所ノ答ヲ爲サヽルヲ得サルカ如キ疑問又ハ證人ヲシテ然リ或ハ否ラスト答ヘシムル如キ問ヲ起スヲ得ス然レトモ證人トシテ召喚サレタル人カ其之ヲ召喚シタル對手ニ對シテ抗敵スルカ或ハ反對ノ利害心ヲ有スルカ或ハ證據ヲ陳述スルコトヲ忌避スルカ或ハ失念ノ爲メ證據ヲ脱漏シタル場合ニ於テハ誘導ノ問ヲ起スヲ得ルナリ且該人ノ適否ヲ彈劾スルニハ其人一般ノ榮譽外ニ渉ルヲ得サルモノトス

英吉利法律講義録 1886(明治19年) 第1年級第9号(1886年11月13日発行)

民事被告召喚狀ノ式

民事被告召喚狀ノ式

大日本帝國神奈川駐箚合衆國總領事廳ニ於テ

原告人　某

對

合衆國ノ人民ナル

被告人　某

前記原告ヨリ相係ル貸金催促損害要償等訴訟事件ノ訴狀副本ヲ送達スルニ付キ横濱港内ニ住スル被告人ハ送達シタル日ヲ除キ三日以内ニ横濱港外ニシテ帝國ノ或ル場所ニ在ル被告人ハ送達シタル日ヲ除キ二十日以内ニ日本帝國外ニ在ル被告人ハ送達シタル日ヲ除キ四十日以内ニ出庭ノ上答辯ヲ棒呈スヘシ若シ右期限内ニ答辯書ヲ棒呈セサルトキハ原告請願ノ通リ

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第9号(1886年11月13日発行)

裁判言渡スモノナリ

年月日　　合衆國總領事　某

民事保證人召喚狀ノ式

大日本帝國神奈川駐箚合衆國總領事廳　　原告人　某

對

合衆國ノ人民ナル

被告人　某

前記訴訟事件ニ付キ何年何月何日第何時原告又ハ被告ノ爲メ何々ヲ證明スル爲メ神奈川駐箚總領事廳ニ出庭スヘシ若シ此命令ニ違背スルトキハ成規ニ依テ處分ス

證人召喚狀ノ式

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第9号(1886年11月13日発行)

保證人某殿

合衆國總領事及ヒ總領事廳ノ判官總領事廳ノ印章

年月日　　合衆國總領事　某

審判報告ノ書式

審判報告書式

合衆國總領事廳

何年何月何日　神奈川

原告人　某

對

被告人　某

審判ノ報告

前記ノ訴訟事件何年何月何日第何時總領事廳ニ於テ審判ヲ開ク

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第9号(1886年11月13日発行)

書記　某

凡ソ一度提出シタル證據ハ再度之ヲ證據トシテ提出スルヲ得サルモノトス故ニ一度民事ニ提供シタル證據ハ再ヒ之ヲ刑事ニ提出スルヲ得ス若シ斯ノ如キ證據ヲ提出シタル者アルトキハ僞證ノ罪ヲ以テ罰スルナリ(改正布告第八百六十條ヲ參觀スヘシ)

民事ノ場合ニハ其訴訟事件ニ利害心ノ關係ヲ有スル人ト雖モ保證人トシ事實ヲ證明スルコトヲ許スナリ(改正布告第八百五十八條ヲ參觀スヘシ)

證人タルモノ法庭ニ於テ訴訟ノ事實ヲ證明スルニハ必ラス口頭ノ陳述ヲ用ヒサル可ラス特ニ裁判所ノ規則ニテ文書ヲ以テ證明スルコトヲ許ス場合ニハ文書ヲ以テ證明スルヲ得ルト雖モ之レハ所謂變例ニシテ口頭ノ陳述ヲ用ヒテ證明スルハ一般ノ規則ナリ故ニ文書ヲ以テ

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第9号(1886年11月13日発行)

文書ノ口供ヲ採用スル場合

證明スル場合ニハ證人之ヲ拒否スルヲ得ヘシ(改正布告第八百六十一條ヲ參觀ス可シ)

然レトモ民事ニテ文書ノ口供ヲ必要トスル場合アリ而シテ合衆國領事廳カ日本帝國内ニ於テ文書ノ口供ヲ採用スル場合ハ則チ左ノ如シ

第一　證人タル者現在訴訟事件ニ關係ヲ有スル乎又ハ該事件ニ利害ノ關係ヲ有スル時

第二　證人タル者現ニ證明ヲ要スル港又ハ都府ノ外ニ居住スル時

第三　證人タル者訴訟ノ起リタル場所ヲ將ニ去ラントシテ其訴件ニ就テ證明ヲ要スル頃迄歸着スルノ望ミナキ時

第四　證人タル者疾病等ニテ出庭スル能ハサル時

右等ノ事情アルトキハ文書ノ口供ヲ取リ得ルヲ以テ其之ヲ要スル原告又ハ被告ハ豫メ右等ノ事實ヲ證明シテ公使又ハ領事ニ請願シ審問

ノ場所及ヒ時日ヲ其對手ニ報告シ然ル後チ公使又ハ領事ノ前ニ於テ口供ヲ取ルモノトス而シテ口供完結スルトキハ之ヲ證人ニ讀ミ聞カセ證人ニ於テ修正ヲ要スルトキハ修正ヲ加ヘテ之ニ記名調印シ公使又ハ領事ノ證印ヲ受ケタル後チ領事之ヲ封鎖シテ口供ヲ要スル場所卽チ現ニ訴訟ノ起リタル席所ニ送達ス例ヘハ長崎ノ領事廳ニ於テ必要トスル證人ノ口供ヲ横濱ニテ取リ直ニ之ヲ長崎ニ送達スルノ如キ類是レナリ

證人ノ口供ヲ取ルトキニ原被告共ニ臨席スルトキハ其訊問ノ際ニ於テ右口供ニ對シ故障ヲ陳述スルニ非サレハ後日ニ至リ故障ヲ申立ルヲ得ス證人タル者審判ノ場所ニ不在ナル乎又ハ病氣等ニテ出庭シ能ハサル場合ニ文書ノ口供ヲ取リタルトキハ審判ノ時ニ於テ其不在又ハ病氣ナルコトヲ充分ニ證明セサル可カラス且ツ證人ノ死去シタル

文書ノ口供ヲ取ル方法

塲合ニ於テハ斯ノ如クシテ取リタル口供ヲ審判ノ際ニ朗讀スルヲ得ルモノトス(領事廳規則第百七十條乃至第百七十二條ヲ參觀スヘシ)

上來陳述セシ所ノモノハ日本帝國ニ於ケル合衆國領事廳ノ證據法ナリト雖モ日本帝國以外ノ他國ニ於テ民事訴訟ノ塲合ニハ召喚狀ノ送達又ハ被告ノ出庭後及ヒ或ル特別ノ訴訟手續ニ於テ事實ノ論點確定シタル後ハ何時ニテモ文書ノ口供ヲ取リ得ルモノトス蓋シ口供ヲ取ルニハ委任狀ヲ用ユルモノニシテ此ノ委任狀ハ原告又ハ被告カ其趣意ヲ對手ニ報告シ五日ヲ經タル後チ請求者ノ意ニ應シ其訴訟ヲ審理スル裁判所ヨリ之ヲ發スルナリ蓋シ右ノ委任狀ヲ送達スヘキ人物ハ原被兩造協議ノ上之ヲ指定スヘシト雖モ若シ互ニ異議ヲ唱ヘテ一致セサルトキハ裁判所ニ於テ撰定シタル官吏ヘ宛テ之ヲ送達スルモノトス且ツ右ノ委任狀ニハ證人ニ對シテ訊問スヘキ疑點ヲ記載シ其疑

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第11号(1886年11月27日発行)

問ノ式ハ原被兩造協議ノ上之ヲ定メ若シ互ニ異議ヲ唱ヘテ一致セサルトキハ裁判所ニ於テ之ヲ定ムルナリ又此ノ委任狀ハ其送達ヲ受ケタル人ニ證人ヲシテ宣誓ノ式ヲ行ハシメ文書ノ口供ヲ取リテ之ヲ檢定シ以テ裁判所又ハ其他指定サレタル人ニ送致スルノ權力ヲ與エルモノナリ又曾テ送達シタル委任狀ヲ返還セサルノ故ヲ以テ審判ノ手續ヲ猶豫スルヲ得ス但シ證人ノ證言ヲ必要トシ其之ヲ得ル爲メ相當ノ力ヲ盡シタル確證アルトキハ此ノ限ニアラス(領事廳規則第百七十三條乃至第百七十五條ヲ參觀スヘシ)

訴訟審判ノ手續中時宜ニ依リ右ニ記載シタル證據物トハ異ナル文書及ヒ印刷書類ヲ證據トシテ提供スルコトアリ而シテ是等證據物ノ取捨及ヒ其効驗ニ關スル重ナル規則ハ今左ニ之ヲ陳述スヘシ

裁判所ハ原告又ハ被告ニ命シテ其所有又ハ管理ニ屬スル書籍證書及

ヒ其他現訴訟ニ關スル證據物ヲ含有スル所ノ書類ヲ提出セシムル事アリ而シテ原告又ハ被告若シ右ノ命令ニ違背スルトキハ其違背者ハ書籍證書及ヒ其他ノ書類ヲ證據物トシテ提供スルヲ得サルモノトス若シ又被告ノ所有或ハ管理ニ屬スル書類ヲ提供センコトヲ原告ヨリ請求シタル場合ニ於テ被告若シ之ヲ拒絶シタルトキハ右書類ハ原告ノ爲メ利益アルモノニシテ被告ノ爲メニハ不利ナルモノト推測シ統テ裁判所ノ命令ニ違背スル者ハ法庭侮辱ノ罪ヲ以テ罰スルモノトシ且ツ此規則ハ證人並ニ訴訟對手人共ニ之ヲ適用スルナリ

口頭ノ陳述ヲ以テ文書ノ證據ヲ說明シ得ルト雖モ之ヲ以テ證書ノ言語ヲ變換若クハ反對セシムルヲ得サルハ余輩既ニ之ヲ講述セシカ合衆國ノ公使館ニ於テ制定セシ證據法ハ此ノ規則ニ密着ノ關係ヲ有スルモノナレハ今左ニ之ヲ陳述スヘシ(領事廳規則第百七十九條ヲ參觀

文書ニ記載スル事柄ヲ證明スル方法

スヘシ)

左ニ掲クル場合ヲ除クノ外ハ文書ノ表面ニ記載スル事ヲ證明スルニハ必ス文書其物ヲ用ヰ決シテ他物ヲ以テ之ヲ證明スルヲ得サルモノトス

第一　原書ノ紛失若クハ破却シタルトキ但シ此ノ場合ニ於テハ豫メ其原書ノ紛失若クハ破却シタルコトヲ證明セサルヘカラス

第二　原書反對者ノ手ニ存在スル場合ニシテ相當ノ通知ヲ得タル後ヲ反對者ニ於テ之ヲ提供セサル時

第三　原書カ合衆國官吏ノ保管ニ屬スル公文書ナル時

第四　合衆國ノ法律ニテ檢定謄本ヲ以テ證據トナスコトヲ許シタル場合

一タヒ證書ヲ調製シタル後ヲ爭論ニ必要ノ點ナル文書ヲ變更シ若ク

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第11号(1886年11月27日発行)

ハ變更シタルモノト認定セラルヽ證書ヲ眞正ナルモノトシテ提供シ其變更ノ理由ヲ附記セサルトキハ法律上之ヲ變換シタルモノト認定ス故ニ斯ノ如キ證書ヲ提供シタル人ハ自己ノ承諾ヲ待タス他人之ヲ變更シ又ハ反對者ノ承諾ヲ得テ自ラ之ヲ變更シ若クハ毫モ惡意ナク虛心平氣ニ之ヲ變更シタルコトヲ證明スルニ非サレハ右ノ證書ヲ證據物トシテ提供スルヲ得サルナリ

大日本帝國駐劄ノ合衆國公使館又ハ領事廳ノ文書及ヒ裁判書類ハ原書又ハ領事廳ノ印章ヲ押捺シタル撿定謄本ヲ以テ之ヲ證明スルヲ得ルモノトス

合衆國裁判所ノ記錄及ヒ裁判書類ハ謄本ヲ以テ證明スルヲ得ルト雖モ其謄本ニハ裁判所ノ印章ヲ押捺シテ書記之ニ撿印シ且ツ其裁判所ノ所長及ヒ判官カ書記撿印ノ正當ナルコトヲ認メタル印證アルヲ要

英吉利法律講義録 1886(明治19年) 第1年級第11号(1886年11月27日発行)

契約及ヒ所有權ニ關スルコトヲ證明スル方法

スルナリ

右ノ規則ハ合衆國外ノ諸國ニ在ル裁判所ノ記錄及ヒ裁判書類ヲ證明スルニモ之ヲ適用シ得ルモノニシテ唯其異ナル所ハ此ノ場合ニ於テハ謄本ニ他國駐劄ノ合衆國公使又ハ領事ノ檢印ヲ要スルナリ

所有權又ハ契約ニ關スル事ヲ證明スルニ必ス文書ヲ以テセサルヘカラサル場合アリ今左ニ之ヲ列擧セント欲ス

一　土地及ヒ土地ノ利益ヲ他人ニ讓與スル場合但シ航海者航海中ニ軍人軍役中ニ遺囑證書ヲ用ヰスシテ讓與ヲ爲シタルトキハ此限ニアラス

二　滿三年以上土地又ハ土地ノ利益ヲ他人ニ讓與スル場合

三　遺囑管理人又ハ無遺囑管理人カ自己ノ財產ヲ以テ死者ノ負擔スヘキ損害賠償スルノ契約

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第11号(1886年11月27日発行)

四　甲者カ乙者ノ負債又ハ乙者ノ過誤失錯ヨリ生シタル損害ヲ償却スルノ契約

五　姻婚ノ報償トシテ爲シタル約束例ヘハ婚姻ヲナストキハ土地又ハ其他ノ財産ヲ與ユヘシト約束シタル等ノ如シ

六　結約ノ當時ヨリ一年以内ニハ之ヲ履行セサルノ約束

七　價値十五磅以上ノ物品ヲ賣買スルノ契約但シ結約ノ當時買者ニ於テ物品ノ一部ヲ領收シ若クハ代價ノ一部ヲ拂ヒ其他契約完結スルノ手續ヲ終ヘタル時ハ此限ニアラス(詐僞條例第三章ヲ參觀スヘシ)

八　商工見習奉公ノ契約

九　船舶賣買ノ契約

右第八及ヒ第九ノ塲合ハ「グリーンリーフ」證據法第一卷第二百六十

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第11号(1886年11月27日発行)

一節及ヒ第二百七十四節ヲ參觀スヘシ

英國ノ詐僞條例ヲ合衆國ノ領事廳ニ於テモ之ヲ適用シ得ルヤ否ヤニ就テハ一千八百八十一年十一月尾崎芳之助ヨリマリアンスニ對スル訴訟ノ時ヨリ種々ノ議論アリシト雖モ今尚ホ確然一定ノ塲合ニ至ラス一方ニ於テハ合衆國ノ領事廳ニ於テ適用シ得ヘキ法律中ニハ英國ノ布告律ヲ包括セサルコトヲ主張シ他ノ一方ニ在テハ米國ノ殖民カ大英國ノ抑制ヲ脫却シテ合衆獨立國ヲ建設スルニ當リ從來遵奉セシ英國ノ慣習法及ヒ布告律ニシテ苟モ新設ノ制度ニ不適當ナラサルモノハ悉ク之ヲ採用シ合衆國ノ立法官モ亦曾テ右等ノ法律ヲ修正廢棄スルコトヲ明言シタルコトナク獨立後ニ於テモ實際効力ヲ有セシモノナレハ獨リ領事廳ニ於テノミ之ヲ適用シ能ハサルノ理ナキヲ論辯セラレタリ蓋シ此議論ハ前ニモ陳述シタル如ク未タ確定シタルニア

英吉利法律講義録 1886(明治19年) 第1年級第11号(1886年11月27日発行)

出訴期限

ラサルヲ以テ余カ今茲ニ詐僞條例ヲ引用シタルハ決シテ不當ナラサルヲ信スルナリ且ツ余ハ同時ニブラックストーン氏カ與ヘタル民事出訴期限ニ關スル法律ニ就テ一言センニ出訴ノ期限ハ種々ニシテ一定セサルヲ以テ左ニ之ヲ列擧スヘシ

一　地所明渡シ請求ノ出訴期限ハ滿二十年

二　侵害、留置品取戻、差押品取戻、遺失物取戻、正算勘定、無印契約ノ負債、延滯地代家賃請求ノ出訴期限ハ滿六年

三　威迫、歐打及ヒ監禁等ニ關スル損害要償ノ出訴期限ハ滿四年

四　讒謗ニ關スル出訴期限ハ滿二年

五　上告ノ出訴期限ハ滿二十年

六　證書負債ノ出訴限ハ滿二十年

訴訟ノ原因合衆國又ハ其他ノ外國ニ於テ起ルモ其國ノ法律ヲ以テ定

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第11号(1886年11月27日発行)

財産差押手續 ᵢAttachment.

メタル出訴期限ヲ經過シタルノ故ヲ以テ該國ニ於テ訴訟ヲ提起スル能ハサル場合ニハ日本國ニ於テモ亦右訴訟ヲ提起スルヲ得サルモノトス(領事廳規則第二百二十七條ヲ參觀スヘシ)

訴訟ノ性質ニ據リ對手ノ一方ニ於テ其財産ヲ隱匿若クハ賣却スルノ恐レアルトキハ他ノ一方ヨリ之カ差押ヲ請求シ得ルモノトス今其手續ヲ畧述スヘシ

財産差押手續

民事訴訟ノ起頭若クハ審理中ニ原告ハ其裁判所ニ對シ財産差押ノ令狀ヲ請願シ得ルモノニシテ若シ然ルトキハ裁判所ハ「マーシヤル」官ヲシテ直ニ被告ノ所有ニ屬スル財産ノ全部又ハ原告ノ請求ニ應スルニ足ル丈ケノ財産ヲ差押ヘシムルナリ然レトモ若シ被告ニ於テ二名以上ノ保證人ヲ立テ原告ノ請求及ヒ訴訟費用ヲ償却スルニ充分ナル金

英吉利法律講義録 1886(明治19年) 第1年級第11号(1886年11月27日発行)

財産差押ヲ命スル場合

財産差押狀ヲ請求スル手續

額ノ證書ヲ出ストキハ差押ヲ解クコトアリ蓋シ財産差押ハ常ニ之ヲ許スモノニアラス差押ノ令狀ヲ發スルハ左ノ場合ニ限ルモノトス

第一　負債ヲ償却セシムヘキ動産又ハ不動産ノ抵當ナキ時若シ之レアルモ被告ノ所爲ヲ以テ之ヲ消滅セシメタル時

第二　日本帝國ニ在留セサル人ト締結シタル契約ニ關シ其人ニ對シテ訴訟ヲ提起スル時

裁判所ハ財産差押ノ令狀ヲ發スル前ニ先ツ原告ヲシテ左ノ件々ヲ證明スルノ宣誓書ヲ出サシムルナリ

第一　被告某ハ原告ニ對シテ若干額ノ負債ヲ有シ原告ヨリ被告ニ對シテ支拂フヘキ若干額ト差引ヲ爲シ猶ホ若干圓ノ餘債アリテ被告ハ之カ辨償ヲ確實ナラシムルニ足ル抵當品ヲ有セサル事

第二　被告某ハ原告ニ對シテ若干金額ノ負債ヲ有シ原告ヨリ被告ニ

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第11号(1886年11月27日発行)

償却スヘキ金圓ト差引ヲ爲スモ猶ホ殘額若干圓アリ且ツ被告ハ日本帝國ニ在留スル者ニ非サル事

差押ノ手續

原告ハ右ノ宣誓書ヲ提供スルト同時ニ二名以上ノ保證人ヲ立テ其請求金額ノ全額以下半額以上相當スル金額ノ證券ヲ提供セサルヘカラス而シテ被告若シ勝訴トナルトキハ裁判所ハ訴訟費用及ヒ其他財産差押ヨリ生スル所ノ損害ハ原告ヲシテ悉皆之ヲ償却セシムルト雖モ其辨償ノ高ハ保證狀ニ明示シタル額ヲ超過スルヲ得サルモノトス

財産差押ノ令狀ヲ受領シタル「マーシヤル」官ハ若シ其差押ユヘキ財産不動産ナルトキハ令狀ノ寫ヲ其不動産所持者ニ送達シテ差押ノ手續ヲ爲シ若シ其不動産ヲ所持スル者ナキトキハ令狀ノ謄本一通ヲ公衆ノ眼ニ觸レ易キ場所ニ掲示シ他ノ一通ヲ其不動産所在地ノ領事廳ニ捧呈シテ以テ差押ノ手續ヲ爲シタルモノトス

英吉利法律講義録 1886(明治19年) 第1年級第11号(1886年11月27日発行)

又兩手ヲ以テ授受シ得ル動產ハ其現品ヲ「マーシヤル」官ノ手ニ領置シテ以テ差押ノ手續ヲ爲スナリ

銀行會社等ノ資本株券又ハ其利益ヲ差押ユルニハ令狀ノ寫ヲ銀行又ハ會社ノ頭取支配人會計掛又ハ其他ノ役員ニ送達シ且ツ某訴訟事件ニ就キ被告某ノ株券或ハ其利益ヲ差押ユル旨ヲ報告シテ以テ差押ノ手續ヲ完了シタルモノトス

負債貸金其他兩手ヲ以テ受授シ能ハサル動產ヲ差押ユルニハ令狀ノ寫ヲ債主負債主又ハ其他ノ動產所有主若クハ此輩ノ代理者ニ送達シ且ツ前條ノ場合ニ於ケルカ如キ報告ヲ爲シテ以テ差押ノ手續ヲ終結スルナリ而シテ右令狀ノ送達ヲ受ケタル者ハ差押ヘラレタル物件ヲ「マーシヤル」官交付スルニ非ラサル以上ハ差押解除又ハ原告ノ請求ヲ滿足セシムルニ至ルマテハ右差押ヘラレタル物件ニ對シ決シテ其責

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第11号(1886年11月27日発行)

ヲ免ルヽ能ハサルナリ

此差押方法ハ所謂委托手續ト稱スルモノニシテ勿論被告ノ負債主又ハ信任受托者ニ限リ之ヲ適用シ且ツ其負債主又ハ信任受托者ハ必ラス合衆國ノ國民ナル塲合ニ限ルモノトス

「マーシヤル」官ヲシテ差押ユヘキ財産ニ關シ充分ノ搜索ヲ遂ケシムル爲メ合衆國ノ國民ニシテ裁判所ノ管轄地内ニ住居スル被告及ヒ其負債主又ハ受托者ヲ法庭ニ召喚シ宜誓ノ式ヲ行ハシメテ以テ右差押財産ニ關スルコトヲ證明セシムルヲ得

「マーシヤル」官ハ差押ノ手續ヲ完結シタル被告ト共ニ其差押ヘタル財産ノ目錄ヲ裁判所ニ送達セサル可カラス而シテ其差押ヘタル財産中ニ若シ消滅シ易キ性質ノ物品アルトキハ「マーシヤル」官ハ之ヲ公賣ニ附シテ以テ其代價ヲ領置シ得ルモノトス

英吉利法律講義録 1886(明治19年) 第1年級第11号(1886年11月27日発行)

差押ヘタル動産ニ就テ第三者ヨリ故障アル場合

差押ヘタル動産ニ對シ第三者ヨリ自己ノ所有物ナリトテ之ヲ請求スルトキハ「マーシヤル」官ハ直ニ請求人ノ氏名請求ノ價額及ヒ性質ヲ原告又ハ其代理者ニ報告シ原告ハ此ノ報告ヲ得タル後チ二日以内ニ若シ二名以上ノ保證人ヲ立テ第三者ノ請求額ニ二倍ノ證券ヲ「マーシヤル」官ニ提供シ右差押ニ關スル一切ノ費用及ヒ損失ヲ辨償スルコトヲ表明スルニ非ラサレハ「マーシヤル」官ハ右動産ヲ其請求人卽チ第三者ニ交附スルモノトス

裁判ノ結果ニテ原告ノ勝訴ニ歸スルトキハ「マーシヤル」官ハ直ニ其差押ヘタル物件公賣ノ公告ヲ爲シ公賣ニ付シテ得タル代價ヲ以テ原告ノ請求ヲ滿足セシムルナリ然レトモ若シ公賣ニ付シタル代價ニテ不足ヲ生スルトキハ原告ハ被告ノ所有ニ屬スル他ノ財産ニ對シ執行ノ令狀ヲ請求シ得ルモノトス

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第11号(1886年11月27日発行)

執行免除ノ財産

ろReplevin.

抑留物取戻請求ノ手續

然リト雖モ今左ニ記載スル物品ハ執行ノ命令狀ヲ以テ差押ユルヲ得サルナリ

代價合計百弗以下ノ机倚子文庫及ヒ書籍合計代價六百弗以下ノ衣服寢臺煖爐一人又ハ一家族ヲ一月間支ユルニ足ル食料其他生計ニ必要ナル器具職工又ハ機械師等カ其職業ヲ行フニ必要ナル機械及ヒ道具醫師外科醫測量家及ヒ齒醫等カ其業ヲ營ムニ必要ナル機械道具箱及ヒ書籍代言人及ヒ教法家ノ書庫等ノ如キハ皆差押ユルヲ得サルモノトス(領事廳規則第三十二條乃至第五十二條ヲ參觀スヘシ)

ろ抑留物取戻請求ノ手續

特定ノ動產取戻請求ノ訴訟ニ就キ若シ原告ノ方ニ於テ被告カ其訴件ニ關シ出廷答辨スル以前ニ誓證書ヲ裁判所ニ捧呈シテ被告ハ原告ノ所有物又ハ原告ニ於テ所有權ヲ有スル物品ヲ不正ニ抑留シ居ル事實

英吉利法律講義録 1886(明治19年) 第1年級第11号(1886年11月27日発行)

ヲ述ヘ其抑留ノ原因及ヒ抑留物ノ價額且ツ抑留ノ手續正當ナラサルコトヲ證明スルトキハ其財產ノ交附ヲ請求シ得ルモノトス

原告又ハ其代理人ハ右ノ誓證書ニ裏書シテ其表面ニ記載シアル物品ヲ自己ニ交附セン「ヲ裁判所ノ「マーシヤル」官ニ請願スルヲ得ルナリ然レトモ此ノ請願ヲ爲スニハ原告ハ豫メ「マーシヤル」官ノ認可ヲ經タル二名以上ノ保證人ヲ立テ現ニ交附ヲ請求スル物品ノ價格ニ二倍スル金額ノ證券ヲ「マーシヤル」官ニ差出シ置キ裁判ノ結果如何ニ依リ右物件被告ノ所有ト決スルトキハ爲メニ被告カ蒙ムリタル所ノ損害及ヒ費用償却ヲスルコト慥カメサル可カラス

右ノ手續ヲ爲ストキハ「マーシヤル」官ハ誓書及ヒ保證狀ノ寫ヲ被告ニ送達シテ被告又ハ其代理者ノ手ニ在ル物件ヲ己ノ手元ニ領置スルナリ而シテ右ノ誓書及ヒ保證狀ヲ送達スルニ當リ被告所在分明ナルト

キハ必ス被告自身ニ之ヲ請取ラシメ其所在分明ナラサルトキハ之ヲ其平生ノ住所ニ送達シ置クモノトス

右ノ場合ニ於テ「マーシヤル」官カ被告ノ所有スル物件ヲ自己ノ手元ニ領置シ未タ之ヲ原告ニ交附セサル以前ニ在テハ被告ハ何時ニテモ「マーシヤル」官ニ對シ右物件ノ返戻ヲ請願シ得ルナリ而シテ其之ヲ請願スルニハ豫メ「マーシヤル」官ノ認可ヲ經タル二名以上ノ保證人ヲ立テ右物件ノ價格ニ二陪スル金額ノ證券ヲ提供シ裁判ノ結果如何ニ依リテハ爲メニ來シタル損害及ヒ費用ヲ辨償スルノ責ニ任セサル可カラス而シテ「マーシヤル」官カ原告ノ誓書及ヒ保證狀ノ寫ヲ被告ニ送達シテ其所有物ヲ領置シタル後三日以内ニ被告ヨリ其物件返戻ヲ請求セサルトキハ「マーシヤル」官ハ直ニ之ヲ原告ニ交附セサル可カラス然レトモ右物件ニ對シ第三者ヨリノ請求アリタルヲ以テ直ニ其旨ヲ原告

ニ報告スル場合及ヒ右ノ報告ヲ得タル後二日以内ニ原告ヨリ前ニ述ヘタル如キ保證狀ヲ提供セサル場合ニハ之ヲ原告ニ交附スルヲ要セス「マーシヤル」官ハ直ニ之ヲ請求者ニ交附スルナリ(領事廳規則第二十五條乃至第二十八條ヲ參觀スヘシ)

民事訴訟ニ關シ被告人ヲ逮捕スル手續

左ニ記載スル理由アルトキハ民事訴訟ニ於テモ其訴訟ヲ審理スル裁判所ニ對シ被告人逮捕ノ令狀ヲ請願シ得ルモノトス蓋シ之ヲ請願スル手續ハ裁判所ニ誓書ヲ捧呈シ其誓書中ニ逮捕狀ヲ請求スルノ理由ヲ記載セサル可カラス

一 被告人其債主ヲ欺クノ意ヲ以テ將ニ日本帝國ヲ去ラントスル時

二 被告人ガ他人ノ代理者又ハ受托者トナリタル間ニ其本人又ハ依托者ノ金錢又ハ物品ヲ自己ノ用ニ供シタル時

民事上被告人ヲ逮捕スル手續及ヒ場合

英吉利法律講義録 1886(明治19年) 第1年級第11号(1886年11月27日発行)

三　動產ノ所持ヲ回復スルノ訴訟中被告人其動產ノ全部又ハ一部ヲ隱匿讓與又ハ賣買シヲ之ヲ發見スルヲ得サラシメ又ハ「マーシヤル」官ヲシテ之ヲ差押ユルヲ得サラシムル時

四　被告人詐僞ヲ以テ負債ヲ契約シタル時又ハ現在ノ訴訟事件ニ就キ被告人ノ詐僞ヲ發見シタル時

五　被告人其債主ヲ欺クノ意ヲ以テ自己ノ財產ヲ讓與賣買シ若クハ賣買讓與セントスル時

以上列擧シタル理由ノ內其一ヲ存スルトキハ原告ハ被告人ノ逮捕ヲ請願シ得ルト雖モ裁判所ニ於テハ右逮捕令狀ヲ發スル前豫メ原告ヲシテ二名以上ノ保證人ヲ立テ五百弗ヨリ少カラサル金額ノ證券ヲ提供セシメ裁判ノ結果如何ニ依リ被告人カ蒙ムリタル損害及ヒ費用ヲ辨償セシムルモノトス

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第11号(1886年11月27日発行)

抑モ逮捕狀ハ原告ヨリ訴狀及ヒ保證狀ヲ提供シ裁判所ヨリ被告召喚狀ヲ發シタル後ハ何時ニテモ之ヲ請求シ得ルモノニシテ「マーシヤル」官之ヲ送達スルナリ且ツ逮捕狀ニハ被告人ヲ逮捕シ及ヒ特定ノ金額ヲ徵收シテ保釋ヲ許シ特定ノ時日內ニ其手續ヲ裁判所ニ報告スヘキ「マーシヤル」官ヘノ命令ヲ記載シ被告人逮捕ノ時ニ於テ「マーシヤル」官ヨリ原告ノ保證狀ト共ニ之ヲ被告ニ渡スナリ

裁判執行以前ニ於テ被告人ヨリ逮捕狀ニ記載スル金額ヲ出シテ保釋ヲ請願スルトキハ之ヲシテ二名以上ノ保證人ヲ立テ何時ニテモ裁判所ノ召喚並ニ裁判執行ノ命令ニ應スヘキコトヲ證明セシメ又ハ單ニ原告ノ請求ニ應スヘキ旨ヲ證明セシメ若クハ逮捕狀ニ記載スル金額ノミヲ徵收シテ之ニ保釋ヲ許スモノトス(領事廳規則第二十二條乃至第二十四條ヲ參觀スヘシ

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第11号(1886年11月27日発行)

禁止令 Injunction.

禁止令狀

禁止令狀トハ裁判所ヨリ發スル命令ニシテ或ル人ニ對シ其命令狀ニ記載スル行爲ヲ爲ス勿レ又ハ其代理者及ヒ從僕ヲシテ令狀ニ記載スル事ヲ爲サシムル勿レト禁止スルヲ謂フ

禁止令ニ二種アリ訴訟ノ起頭ニ於テ發スルモノヲ豫備禁止令ト言ヒ訴訟ノ終結ニ際シテ發スルモノヲ最終禁止令ト言フ蓋シ豫備禁止令ナルモノハ訴訟ヲ審理シ原被兩造ノ權利ヲ決定スル以前ニ豫メ被告ニ對シテ其訴訟ノ原因タル行爲ヲ爲ス勿レト禁止スルモノニシテ最終禁止令ハ訴訟ノ終局ニ至リ原被告ノ權利ヲ確定シタル後恒久ノ救正トシテ與ユルモノヲ謂フナリ

禁止令ハ原告ノ請求理由アルモノトシ此ノ救正ヲ施スノ必要アリト認ムル場合ニ現ニ其訴訟ヲ審理スル裁判所ヨリ發スルモノニシテ其

英吉利法律講義録 1886(明治19年) 第1年級第11号(1886年11月27日発行)

救正ハ原告カ訴求スル所ノ行爲ノ決行又ハ繼續ヲ禁制スルヨリ成立モノニシテ訴訟審理中ニ於テ原告カ訴求スル所ノ行爲ヲ決行シ又ハ之ヲ繼續スルトキハ原告ニ於テ大ナル損害ヲ蒙ムルノ恐アルトキ又ハ被告ニ於テ訴訟ノ目的ニ關スル原告ノ權利ヲ侵害スルノ行爲ヲナシ之カ爲メ裁判ノ結果ヲ無効ナラシムルノ傾向アルカ如キ場合ニ於テハ裁判所ハ直チニ斯ノ如キ行爲ヲ禁制スルナリ

禁止令ヲ請求スル手續

禁止令ハ被告召喚狀ヲ發スルト同時ニ之ヲ發スルヲ得或ハ又裁判言渡前ハ何時ニテモ之ヲ發スルヲ得ルナリ而シテ若シ訴訟ノ起頭ニ於テ禁止令ノ下附ヲ必要トスルトキハ請願ノ式ニ依テ以テ之ヲ請求セサル可カラス然レトモ訴訟審理中ニ之ヲ必要トスルトキハ其請求書ニ誓詞ヲ添ヘルヲ以テ足レリトス

裁判所ニ於テハ禁止令ヲ發スル前ニ其之ヲ請願スル原告ヲシテ二名

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第15号(1886年12月25日発行)

以上ノ保證人ヲ立テ若シ原告ノ請求不當ニシテ爲メニ禁止令ヲ發セラレタル人ニ損害ヲ與ユルカ如キコトアルトキハ直チニ之ヲ賠償スヘキ旨ノ保證狀ヲ呈供セシム然レトモ合衆國ノ政府カ原告人タル塲合ハ此限ニ非サルナリ

禁止令ヲ發セラレタル方ニ於テ之カ解除又ハ變改ヲ請求セント欲スルトキハ其趣ヲ反對ノ地位ニ立ツ人ニ報告シ裁判所ニ對シテ之ヲ請求シ得ルモノトス裁判所ニ於テハ能ク其事實ヲ審究シ果シテ禁止令ヲ發スルニ足ル理由ナキモノト判定スルトキハ適宜ニ之ヲ解除又變改スルナリ(領事廳規則第二十九條乃至第三十一條ヲ參看スヘシ)

又合衆國ノ領事廳ニ於テ特ニ規則ヲ設ケ其第二十條ニ凡ソ裁判所ニ呈供スル保證書ニ署名シテ證人トナルヘキ人ハ必ラス日本帝國在留ノ合衆國民ニシテ執行免除ノ部ニ屬セサル財產ヲ以テ各自ノ負債ヲ

英吉利法律講義録 1886(明治19年) 第1年級第15号(1886年12月25日発行)

償却シ得ル財産ノ外猶ホ右保證書ニ記載スル金額ヲ辨償スルニ充分ナル財産ヲ有スル人ニ限ルモノトセリ

命令書 Mandamus

○命令書「マンダマス」

命令書「マンダマス」ハ普通法高等裁判所ニ於テ其管轄ニ屬スル下等裁判所又ハ官吏ヲシテ其職務ヲ執行セシムル爲メニ發スルモノナリ蓋シ羅甸語ノ「マンダマス」ハ余ハ汝ニ對シテ命令スト云フ意義ニシテ領事廳規則ノ第百九十七條ニ依レハ在日本帝國合衆國公使館ヨリ領事廳ニ對シテ此ノ命令書ヲ發スルヿアリ或ハ公使館又ハ領事廳ヨリ會社會同又ハ一個人ニ對シ其法律上負擔スル所ノ義務ヲ履行セシムル爲メ又ハ權利或ハ官職ヲ享有ス可キ人ニシテ不正ニ之ヲ剝奪セラレタル者アルトキハ其之ヲ享有セシムル爲メ此ノ命令書ヲ發スルナリ然レトモ如何ナル場合ニテモ此ノ令狀ヲ發シ得ルモノニアラス普通

英吉利法律講義録 1886(明治19年) 第1年級第15号(1886年12月25日発行)

復審命令書 ろCertiorari

ノ手續ヲ以テ法律上最モ迅速適宜ノ救正ヲ施ス能ハサル場合ニ限リ命令書ヲ發スル者ニシテ且此令狀ヲ請求スル者ヨリ誓詞ヲ呈シタル後ニ非ラサレハ決シテ之ヲ下附セサルモノトス而シテ命令書送達ノ手續ハ民事被告召喚狀ノ送達ト異ナル所ナシト雖モ裁判所ヨリ特ニ其送達ノ手續ヲ示スコトアリ故ニ此ノ場合ヲ除ク外ハ總テ召喚狀ト同一ノ手續ヲ以テ之ヲ送達スルナリ

○「ろセルチヲララライ」(復審命令書)

「セルチヲララライ」トハ高等裁判所ヨリ下等裁判所ニ對シテ或ル格段ナル事件ニ關スル其記錄ヲ證明シテ送附センヿヲ命スル令狀ニシテ下等ノ裁判所及裁判官ニ於テ錯誤ノ裁判ヲ下シタルトキ其錯誤ヲ正シ適法ノ裁判ヲ與ユル爲メ復審ヲ要スル場合ニ此ノ令狀ヲ發スルナリ

「セルチヲララライ」狀卽復審命令書ハ人民ノ請願ニ應シ在日本帝國合衆

國公使館又ハ桑港ニ於ケル合衆國巡廻裁判所ヨリ之ヲ下附スルモノニシテ下等裁判所ノ判官又ハ其他ノ官吏ニシテ司法權ヲ掌ル者カ越權ノ裁判ヲ下スモ控訴スルヲ得サルトキ又ハ裁判所ノ判決ニ依テ明瞭迅速且ツ適法ノ救正ヲ得ル能ハサル場合ニ此ノ令狀ヲ必要トスル者ヨリ誓詞ヲ呈供シテ之カ下附ヲ請願スルトキハ裁判所ニ於テハ請願ノ趣旨ヲ反對ノ地位ニ在ル人ニ報告シテ此ノ令狀ヲ下附スルノ理由ナキヲ證明セシムルコトアリ或ハ報告ヲ爲サスシテ直チニ之ヲ下附スルコトアリ而シテ其之ヲ下附スルニハ證明ス可キ記錄ヲ保管スル下等ノ裁判所又ハ官吏ニ宛テ之ヲ送達セシムルナリ

下等裁判所ニ對シテ復審命令書ヲ送達セラレタルトキハ其判官又ハ書記アル裁判所ハ其書記ヨリ記錄ノ謄本ヲ添ヘテ令狀送達ノ報告ヲ爲サヽル可カラス而シテ此令狀ニハ確定ノ場處及時日ニ於テ復審事

英吉利法律講義録 1886(明治19年) 第1年級第15号(1886年12月25日発行)

裁判言渡はJudgment

件ニ關スル記錄ヲ精密ニ證明シ其謄本ヲ令狀ヲ發シタル裁判所ニ送致ス可キ命令ヲ記載シ其送達ノ手續ハ召喚狀ノ送達ト異ナル所ナシ(領事廳規則第百八十七條乃至第百九十六條ヲ參觀ス可シ)

○裁判言渡は

裁判言渡ニ豫審判決終審判決ノ二種アリ豫審判決トハ訴訟審理中或ル答辯又ハ手續等ニ就テ豫メ裁判ヲ言渡スモノニシテ原被兩造ノ權利ヲ決定シ訴訟ヲ完結スルノ判決ニ非ス終審判決トハ訴訟ノ結局ニ至リ原被兩造ノ權利義務ヲ充分ニ說明スル裁判言渡ヲ云フ

裁判言渡ニ關シテハ領事廳規則中左ノ條項ヲ揭ケリ

領事廳規則第五十九條

左ニ記載スル場合ニ於テハ訴訟ヲ棄却シ又ハ原告失訴ノ裁判言渡ヲ爲ス可シ

英吉利法律講義録 1886(明治19年) 第1年級第15号(1886年12月25日発行)

訴狀ヲ棄却シ又ハ失訴言渡ヲ爲ス場合

一　訴訟審問ノ以前ニ於テ原告自ラ訴訟入費ヲ償却シ且ツ被告ノ方ニ於テ反求ヲ爲サヽルトキ

二　對手ノ承諾ヲ經テ一方ヨリ解訟ヲ請求スルトキ

三　對審ノ期日ニ原告出庭セスシテ被告ノミ出庭シ本訴ノ棄却ヲ請求スルトキハ裁判所ヨリ之ヲ棄却ス

四　一度審問ヲ受ケ未タ結審ニ至ラサル前原告ニ於テ訴權ヲ放棄スルトキハ裁判所ヨリ之ヲ棄却ス

五　對審ノ際原告ニ於テ充分ノ證明ヲ爲ス能ハサルヲ以テ被告ヨリ本訴ノ棄却ヲ請求スルトキハ裁判所ヨリ之ヲ棄却ス

領事廳規則第六十一條

左ノ場合ニ於テ被告若シ答辯書ヲ提供セサルトキハ被告欠席裁判言渡ヲ爲スヘシ

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第15号(1886年12月25日発行)

欠席裁判ヲ爲ス場合

一　召喚狀ニ指定スル時日内又ハ猶豫ヲ與ヘタル期限内ニ於テ被告ヨリ答辯書ヲ捧呈セサルトキハ原告ノ請求ニ應シ直ニ被告欠席ノ裁判言渡ヲ爲スヘシ然レモ此場合ニ於テハ裁判所ハ先ツ原告ヲシテ充分ノ訴權ヲ有スルヤ否ヲ證明セシメ果シテ欠席裁判ヲ爲スニ足ル證據ヲ原告ニ於テ呈供シ得ルトキハ其裁判言渡ヲ爲スモノトス且訴訟ノ金額五百弗以上ナルトキハ他ノ場合ニ於ケルト均シク領事ノ裁判事務ヲ補佐スル爲メ補助員ヲ撰定セヲル可カラス

二　被告ノ所在不明ナルヲ以テ召喚狀ヲ新聞紙ニ廣告シ其廣告シタル期限ヲ經過スルモ被告ニ於テ答辯書ヲ呈供セサルトキ原告ヨリ欠席裁判ヲ請求スルトキハ原告ヲシテ前項同樣ノ證明ヲ爲サシメ若シ又被告日本帝國ニ在留スル者ニ非ラサルトキハ原告又

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第15号(1886年12月25日発行)

ハ其代理者ヲシテ宣誓ノ式ヲ行ハシメ曾テ被告ヨリ支拂ヲ受ケタルヤ否ヲ審問シ原告ニ於テ請求ノ權ヲ有スル金額ノミニ就テ

欠席裁判ノ言渡ヲ爲スモノトス

被告カ答辯書ヲ呈供セサル場合ニ原告ニ對シテ與ヘラレタル判決ノ救正ハ訴狀ニ記載スル請求ノ金額ヲ超過スルヲ得スト雖モ答辯書ヲ呈供シタル場合ニ於テ裁判所ハ一切ノ訴訟入費ヲモ拘括スルノ救正ヲ與ヘ得ルモノトス(領事廳規則第五十八條ヲ參觀スヘシ)

訴訟對審ノ際ニ於テ被告ヨリ反求又ハ相殺ヲ提出シ其額原告請求ノ額ニ超過スルトキハ裁判所ハ原告ニ對シテ其不足ノ額ヲ被告ニ償却スヘキ判決ヲ下スモノトス(領事廳規則第八十條ヲ參觀スヘシ)

反求又ハ相殺ノ請求アルトキ

此ノ規則ニ基キ神奈川領事廳ニ於テハ一千八百六十二年九月四日「アドリアン」商會ノ訴訟ニ左ノ判決ヲ與ヘタリ曰ク原告請求ノ額ニ超過

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第15号(1886年12月25日発行)

スル金額ヲ請求シ得ル權利ヲ有スル被告ニシテ若シ單ニ原告請求ノ金額ト相殺ノミヲ請求シ其殘額ヲ請求セサルトキハ被告ハ後日ニ至リ再ヒ之ヲ請求スルノ訴訟ヲ提起スルヲ得サルモノトスト

裁判所ニ於テハ債主ノ利益ヲ保護スル爲メ負債主ヲシテ宣誓ノ式ヲ行ハシメテ總テ其負擔スル所ノ責任ヲ認ムルノ陳述書ヲ呈供セシメ其陳述書中ニ載セタリ負債ニ就テハ恰モ一定ノ手續ヲ履行シテ訴訟ヲ提起シタルモノト同一ノ方法ヲ以テ判決ヲ與ユルナリ(領事廳規則第百五十一條乃至第百五十三條ヲ參觀セヨ)

爭論ヲ影響スル事實ニ就テハ對手雙方共ニ異論ナキモ其事實ヨリ生スル所ノ法律上ノ義務ニ關シテ相互ニ一致スルヿ能ハサルトキハ對手雙方ニ於テ右ノ事實ヲ認メテ之ヲ裁判所ニ呈供シ其裁判ヲ仰クヲ得ルナリ而シテ此ノ場合ニ於テ與ヘラレタル判決ハ相當ノ手續ヲ履

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第15号(1886年12月25日発行)

執行 Execution

行シテ裁判ヲ受ケタル同一ノ効力ヲ有スルモノナリ(領事廳規則第五十四條乃至第五十六條ヲ參觀スヘシ)

○裁判執行

訴訟ニテ勝利ヲ占メタル者ハ其裁判言渡ノ日ヨリ五年内ニ於テハ何時ニテモ裁判所ニ對シテ執行命令書ヲ請求シ得ルモノトス蓋シ此ノ執行命令書ハ亞米利加合衆國々民ノ名義ヲ以テ之ヲ發シ裁判所ノ印章ヲ押捺シ裁判言渡ヲ爲シタル裁判所ノ名稱及金額等ヲ記載シテ之ヲ「マーシヤル」官ニ宛テ送達シ「マーシヤル」官ハ左ノ手續ニ依テ以テ執行スルモノトス

執行ノ手續

一 負債主ノ財産ニ對スル執行ノ場合ニハ「マーシヤル」官ハ先ツ負債主ノ動産ヲ以テ債主ノ請求ヲ滿足セシメ若シ債主ヲ滿足セシムルニ足ル動産ヲ發見スル能ハサルトキハ其不動産ヲ以テ執行ス

英吉利法律講義録 1886(明治19年) 第1年級第15号(1886年12月25日発行)

ルモノトス

二　財産管理者相續人受遺囑者小作人又ハ受托者ノ手ニ在ル動産又ハ不動産ニ對スル執行ノ場合ニ於テハ「マーシヤル」官ハ右ノ動産又ハ不動産ヲ以テ債主ノ請求ヲ滿足セシメサル可ラス

三　負債主ノ身體ニ對スル執行ノ時ニハ「マーシヤル」官ハ負債主ヲ逮捕シテ獄ニ繫キ負債主ニ於テ負債ヲ辨償シタル後之ヲ放免シ若シ辨償シ能ハサルトキハ法律ニ依テ之ヲ放免スルモノトス

四　動産又ハ不動産引渡ニ關スル執行ナレハ「マーシヤル」官ハ其動産及不動産ヲ明細ニ記載シ引渡ヲ受クヘキ權利ヲ有スル人ニ之ヲ引渡サヽル可ラス且ツ「マーシヤル」官ハ費用損害借地料又ハ其他ノ利益ノ如キ債主カ同一ノ裁判ニ依テ回復シタルモノハ負債主ノ動産ヲ以テ之ヲ辨償シ且ツ其動産ノ價格ヲ明示セサル可ラス

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第15号(1886年12月25日発行)

若シ又引渡ヲ爲スヲ得サルカ又ハ充分ノ動産ヲ發見スル能ハサルトキハ第一ノ塲合ニ於ケル如ク其不動産ヲ以テ債主ノ請求ヲ滿足セシムルモノトス

執行ニ關スル「マーシャル」官ノ職務

「マーシャル」官ハ執行命令狀ヲ領收シタル後十日以上六十日以内ニ其執行ノ手續ヲ裁判言渡ヲ爲シタル裁判所ニ報告スルモノトス而シテ苟モ負債主ノ所有ニ屬スル財産ハ法律上執行ヲ免除スル物ノ外ハ其動産ト不動産トヲ問ハス且ツ同一ノ訴訟ニ就テ差押ヘタル財産及財産所有權ハ皆、マーシヤル」官ニ於テ執行シ得ルモノニシテ會社商社ノ株金及其利益動産ト不動産トヲ問ハス總テ會社ノ財産ニ對スル負債及信用、右動産不動産ヨリ生スル利益其他手渡スルヲ得サル財産ハ皆執行ノ際ニ於テハ財産差押狀ヲ以テスル塲合ト同一ノ方法ニ依テ之ヲ差押ヘ得ルナリ

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第15号(1886年12月25日発行)

執行ノ爲メニ差押ヘタル財産ヲ第三者ヨリ自己ノ所有ニ屬スヘキモノトシテ請求スルトキハ「マーシヤル」官ハ直ニ其請求ノ氏名及ヒ請求ノ額ヲ執行請求者ニ報告スルナリ而シテ執行請求者ニ於テ猶右ノ財産ヲ差押ヘ置カント欲スルトキハ右財産ノ額ニ二倍スル金券ノ保證狀ヲ呈供シテ差押ヘタル財産ヲ公賣ニ附スルモ「マーシヤル」官ニ損害ヲ蒙ムラシメサルコトヲ保證セサル可ラス且ツ此保證狀ハ「マーシヤル」官ヨリ報告ヲ受ケタル後二日以内ニ之ヲ呈供セサルトキハ「マーシヤル」官ハ執行命令書ヲ發シタル裁判所ニ其手續ヲ報告シテ右財産ハ第三者ニ交附スルモノトス

執行免除ノ財産

今左ニ記載スルモノハ法律上執行ヲ免除スルモノトス

第一種　負債主ノ所有ニ屬スル机、倚子、文庫、及、書籍、等ノ合計代價百弗以下ノ者

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第15号(1886年12月25日発行)

第二種　負債主ノ所有ニ屬スル日常ノ衣服、器具、寢臺、煖爐、一人又ハ一家族ヲ一月間支ユルニ足ル食料其他生計ニ必要ナル物等ノ合計代價六百弗以下ノ者

第三種　職工又ハ機械師等カ其職業ヲ營ムニ必要ナル機械及道具醫師外科醫測量家及齒醫等カ其業ヲ營ムニ必要ナル機械道具箱及書籍代言人及宣教師ノ書庫

執行ニ付財産差押ノ手續

「マーシヤル」官カ負債主ノ財産ニ對シテ命令ヲ執行スルニハ先ツ債主ヲ滿足セシムルニ充分ナル負債主ノ財産ヲ差押ヘテ之ヲ賣却シ其代價ヲ以テ直ニ債主ニ辨償スルコトアリ或ハ其賣却代價ヲ裁判所ニ預ケ置クコトアリ而シテ賣却代價ヲ以テ債主ノ請求ヲ滿足セシメ「マーシヤル」官ノ手數料ヲ引去リ猶餘アルトキハ其殘額ハ之ヲ負債主ニ還附セサル可ラス又「マーシヤル」官ニ於テ負債主ノ所有ニ屬スル財産ハ

債主ノ請求額ヲ辨償シ「マーシヤル」官ノ手數料ヲ支拂ニ餘アルト認ムルトキハ其全額ヲ差押ヘスシテ單ニ債主ノ請求額ト「マーシヤル」官ノ手數料ヲ支辨スルニ足ル財産ノミヲ差押ユルモノトス而シテ「マーシヤル」官ハ執行ノ爲メ差押ヘタル財産ヲ公賣ニ附スル前ニ於テ豫メ左ノ報告ヲ爲サヽル可ラス

財産公賣ノ手續

一　差押ヘタル物品ノ性質消滅シ易キモノナルトキハ其之ヲ公賣ニ附スル時日及ヒ場所ヲ書載若クハ印刷シテ公賣ニ附スル港或ハ都府中公衆ノ通行スル場所ニ於テ相當ノ時日間之ヲ掲示セサル可ラス

二　他ノ動産ヲ公賣ニ附スル場合ニ於テモ亦前項同樣ノ掲示ヲ爲シ且ツ右掲示ノ寫ヲ其場所ニテ發兌スル新聞紙ニ五日以上十日以下ノ間毎日記載廣告セサル可ラス

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第15号(1886年12月25日発行)

賣買ノ方法

三不動産ヲ公賣ニ附スル場合ニ於テ其財産ヲ明細ニ記載シ其所在ヲ所ノ港或ハ都府中ニテ公衆ノ通行スル場所ニ二十日間之ヲ掲示シ且ツ其寫ヲ該所ニ於テ發行スル新聞紙上ニ毎週一回宛二十日間記載公廣スヘキモノトス

凡ソ執行ニ關スル財産ヲ賣却スルニハ必ス糶賣ノ方法ニ依リ午前第十時ヨリ午後第五時ニ至ルノ間ニ於テセサル可カス而シテ既ニ執行ノ目的ヲ達スルニ充分ナル財産ヲ賣却シタルトキハ他ノ財産ヲ賣却スルヲ要セス且執行官或ハ其代理者ハ糶賣ノ購求者トナルヲ得ス又其購求ニ關係スルヲ得サルナリ若シ又賣却スヘキモノ動産ニシテ手渡ヲ爲シ得ルトキハ糶賣ニ臨列スル人ノ目前ニ於テ可成的高價ヲ得ルノ方法ヲ以テ之ヲ賣却シ若シ又公賣ニ附スヘキモノ數部分ヨリ成立スル不動産ナルトキハ數部分各別ニ之ヲ賣却シ或ハ又第三者ヨリ

斯ノ如キ不動産ノ一部分ヲ自己ノ物ナリト請求シ別ニ其部分ノ賣却ヲ請求スルトキハ其一部分ヲ別ニ賣却スルモノトス

糶賣ノ場所ニ臨列スル負債主ハ數部分ヨリ成立スル財産ニシテ數部分各別ニ賣却スルノ便利アルモノト認ムルトキハ動産ト不動産トヲ問ハス其賣却ノ順序ヲ指揮シ得ルモノニシテ「マーシヤル」官ハ必ス其指揮ニ從ハサル可ラス而シテ落札者若シ其入札代價ノ支拂ヲ拒ムトキハ執行官ハ更ニ他ノ高價ヲ以テ購求セントスル落札者ニ之ヲ賣却スヘシ若シ又入札代價ノ支拂ヲ拒ミタル爲メ多少ノ損害ヲ來シ其拒ミタル人カ合衆國ノ國民ナルトキハ執行官ハ之ヲ被告トシテ損害要償ノ訴訟ヲ提起シ併セテ其訴訟入費ヲモ請求シ得ルナリ

手渡ヲ爲シ得ル動産ヲ購求シタル者其代價ヲ拂ヒ込ムトキハ執行官ハ直ニ其賣買ヲ完結シ財産ヲ購求者ニ引渡シ購求者ニ於テ賣買並ニ

公賣ノ結果

價支拂ノ證明書ヲ必要トスルトキハ執行官ニ於テ之ヲ交付スルナリ蓋此ノ證明書ハ執行差押ヘノ當日ニ至ル迄負債主カ有セシ所有權ヲ購求者ニ移轉セシムルモノナリ

手渡ヲ爲シ得可カラサル動產ノ購求者其代價ヲ支拂ヒタルトキハ其驛賣ヲ掌ル所ノ官吏ハ直ニ賣買代價支拂濟ミノ證明書ヲ調製シテ之ヲ購求者ニ交付セサル可カラス購求者ハ此ノ證明書ニ依テ以テ從來負債主ノ有セシ所有權ヲ收得スルナリ不產動ノ賣買ニ於テ其之ヲ購求シタル者ハ卽チ負債主ノ地位ニ代リ負債主カ右不動產ニ對シテ有セシ權利及ヒ其不動產ヨリ生スル所ノ利益ヲ收得スルモノニシテ若シ其不動產タル二年以下ノ借地權ナルトキハ其賣買ハ完結シテ再ヒ之ヲ買戻スコトヲ得スト雖モ其他ノ財產ノ場合ニ於テハ再ヒ之ヲ買戻シ得ルモノトス故ニ公賣官ハ左ノ條項ヲ記載シタル賣買證明書ヲ

公賣證明書

英吉利法律講義録 1887(明治20年) 第1年級第16号(1887年1月1日発行)

購求者ニ交付スルナリ

第一　公賣ニ附シタル不動產ノ明細書

第二　不動產ノ各部分ニ就テ入札シタル代價

第三　購求者カ支拂ヒタル全体ノ價額

第四　再ヒ買戻シ得ル場合ニハ其之ヲ買戻シ得ルコトヲ記載セサル可カラス

買戻ヲ請求シ得ル人

買戻シ得ヘキ財產ヲ公賣ニ附シタル場合ニ於テ左ニ記載スル人及ヒ其財產相續者ハ之カ買戻ヲ爲シ得ヘシ

第一　負債主又ハ其財產ノ全部或ハ一部ヲ相續スル人

第二　公賣ニ附シタル財產ニ對シ裁判又ハ質入等ニ依リテ請求ノ權利ヲ有スル債主

以上記載スル人ヲ指シテ買戻人ト稱スルナリ而シテ負債主卽チ買戻

英吉利法律講義録　1887(明治20年)　第1年級第16号(1887年1月1日発行)

買戻ノ期限

人ハ公賣後六ヶ月以内ニ於テ其購求者ニ對シ公賣ノ價格ニ一割二分增ノ代價及ヒ購求者カ購求シタル後日本政府ニ納メタル地租ト是等ノ金額ニ對スル相當ノ利子トヲ拂ヒ其公賣ニ付シタル財産ヲ買戻シ得ルモノトス而シテ購求者若シ公賣ニ付セシメタル裁判言渡ノ爲メニ非ラス他ニ買戻ニ對シ先取權ヲ有スル債主ナル場合ニ於テ之カ買戻ヲ爲スニハ其先取請求額及ヒ其利ヲモ亦償却セサル可カラス

公賣ニ附シタル財産ヲ買戻人ニ於テ買受ケタル後他ノ買戻人又之ヲ買戻サント欲スルトキハ其買戻後六十日以内ニ買戻價格ニ四分增ノ代價及ヒ前買戻人カ買戻後日本政府ニ納メタル地租ト是等ノ金額ニ對スル利子トヲ前買戻人ニ拂ヒ之ヲ買戻スコトヲ得而シテ猶ホ其他ノ買戻人ニ於テ之ヲ買戻サント欲セハ卽チ六十日以内ニ右同樣ノ手續ヲ以テ之ヲ買戻シ得ヘシ故ニ買戻ヲ爲サント欲セハ必ラス先ツ「マ

ーシヤル」官ニ對シ其買戻ヲ爲スコトヲ報告セサル可カラス若シ公賣後六ケ月以内ニ買戻ヲ爲サヽルトキハ購求者又ハ其讓受人ハ財産引渡ヲ請求スルヲ得又最初ノ買戻人カ買戻シタル後六十日ヲ經過スルモ他ノ買戻ニ於テ買戻ノ報告ヲ爲サヽルトキハ買戻期限ハ既ニ絶過シタルヲ以テ購求者又ハ其讓受人ハ「マーシヤル」官ニ對シ其賣買證明書ヲ請求シ得ルモノトス若シ又買戻限期ノ經過スル前負債主ニ於テ之カ買戻ヲ爲ストキハ公賣ノ効力ハ消滅シ負債主ヲシテ其以前ノ地位ニ復シ其財産ノ所有者タラシムルモノナリ

買戻ノ方法

買戻財産ノ代價ハ直接ニ購求者(公賣ノ)又ハ前買戻人ニ拂ヒ或ハ賣買ヲ掌ル官吏ニ支拂フコトアリ而シテ買戻人ハ官吏又ハ其他ニ就テ買戻ヲ請求スヘキ人ニ對シ左ニ記載スル書類ト共ニ「マーシヤル」官ニ呈シタル通知書ヲ提供シ且ツ之ヲ送達セサル可カラス

英吉利法律講義録　1887(明治20年)　第1年級第16号(1887年1月1日発行)

第一　質入其他ノ權利ニ依テ買戻ヲ請求シ得ルコトヲ表明スル證書ノ謄本

第二　本人ノ請求權ヲ確定セシムルニ必要ナル讓與證書ノ寫及ヒ其之ヲ證明スル本人又ハ保證人ノ上伸書

第三　實際ノ請求額ヲ證明スル本人又ハ其代理者ノ上陳書

買戻期限中財産使用ノ方法

法律上財産買戻ヲ許ス期限ノ經過スル迄ハ裁判所ノ命令ヲ以テ其財産ニ對スル消費權ヲ制限スルヲ得ルナリ然レトモ之ヲ以テ公賣ノ當時其財産ヲ所有スル人又ハ後日之ヲ所有スヘキ權利ヲ有スル人ハ買戻ヲ許ス期限中ハ從來右ノ財産ヲ使用セシト同一ノ方法又ハ其他適當ノ方法ヲ以テ之ヲ使用スルコトヲ得サルモノト爲ス可カラス購求者ハ公賣ノ時ヨリ其買戻ノ日ニ至ル迄買戻人ハ其買戻ノ日ヨリ他ノ買戻ノ時ニ至ル迄ハ其公賣ニ付シタル財産ヨリ生スル利益卽チ借地

遺囑裁判所 Probate Court

料等ヲ領收スルノ權利ヲ有スルモノナリ

若シ又執行公賣處分ノ不動產ヲ購求シタル者又ハ其財產相續人カ其賣買ノ手續ニ不正ナル所アリタル爲メ又ハ裁判ノ破棄棄却等ヨリシテ右財產ノ所有權ヲ失ヒタル場合ニ於テハ購求者ハ債主ニ對シ其代價及ヒ之ニ對スル利子ヲ請求シ得ルモノトス「マーシヤル」ノ監督スル公賣ニ於テ財產ヲ購求シタル者又ハ其財產相續人カ賣買ノ手續ニ不正ナル所アリタル爲メ或ハ又公賣ニ付シタル財產カ執行免除ノモノナルカ爲メ其所有權ヲ回復スル能ハサルトキハ其管轄權ヲ有スル裁判所ハ本人又ハ其代理者ノ請願ニ應シ原裁判ヲ回復シ購求者ヲ保護スルモノトス(領事廳規則第八十八條乃至第百十四條ヲ參觀スヘシ)

○遺囑裁判所

日本帝國在留ノ合衆國人民カ無遺囑ニテ死去シタル場合ニ於テ其死

英吉利法律講義録 1887(明治20年) 第1年級第16号(1887年1月1日発行)

合衆國民ノ死亡ニ關スル領事館ノ職務

亡者ノ財産分配ノ方法如何ニ關シテハ頗ル困難ノ疑問ヲ生シ今猶ホ歸着スル所ナシ如何トナレハ無遺囑死亡者ノ財産分配ニ關シ合衆國ノ公使館及領事廳ニ於テ遵奉スヘキ合衆國ノ法律トテハ一モ之ナキカ故ニ畢竟慣習法ノ規則ニ依テ以テ財産分配ノ方法ヲ設ケサルヲ得サルノ勢ナレハナリ而シテ合衆國ノ領事廳ニ於テ遺囑財産分配ニ關スル事件ハ曾テ起リタルコトナシト雖モ領事廳ハ豫メ必要ノ場合ニ適用スヘキ規則ヲ制定シタリ

日本帝國駐劄ノ合衆國領事官其管轄ノ區域内ニ於テ在留合衆國民ノ死亡シタル報告ヲ得ルトキハ直ニ其死亡ノ原因遺産ノ有無相續人或ハ親戚及死亡者遺囑ノ有無ヲ探究シ若シ死亡者ノ相續人又親戚中日本帝國ニ在留スルモノナク又遺囑等ヲ發見スル能ハサルトキハ領事官ハ死亡者ノ財産ヲ管理シ在留ノ合衆國民中ニテ多少名望アル二人

英吉利法律講義録　1887(明治20年)　第1年級第16号(1887年1月1日発行)

ノ補助員ト共ニ遺産目錄ヲ調製シテ死亡者ノ負債ヲ償却シ其財産ヲ取纒メ正算書ヲ調製シテ以テ之ヲ合衆國ノ内務省ニ報告スルモノトス蓋シ嚴密ニ之ヲ云ヘハ右ノ職務ハ領事官カ領事ノ資格ヲ以テ爲スヘキ事ニシテ必ラスシモ裁判官ノ資格ヲ以テ行フヘキモノニ非ラス然リト雖モ死亡者ノ相續人或ハ其近親ノ者日本帝國ニ在留シ且ツ死亡者ノ遺囑アル塲合ハ右ト大ニ異ナル所アルヲ以テ領事官ノ職務ハ之ヲ停止シテ遺囑裁判所判官ノ働キヲ要スルナリ

遺囑證明ノ方法

死亡者カ遺囑ヲ爲シタル塲合ニ於テハ先ツ其遺囑ニ關係アル人ヨリ領事廳ニ對シテ遺囑所分ノ命令書ヲ請求スルヲ通例トス而シテ其之ヲ請求スルニハ必ラス請願ノ式ヲ履行シ領事廳ニ宛テ之ヲ呈供セサル可カラス裁判所ニ於テハ右請願書ヲ受理シテ其記錄ニ登載シタル後ニ日ヲ期シテ審問ヲ開キ證據ヲ審査スルモノニシテ此ノ審問ノ時

ニ於テ遺囑書ヲ呈供シ裁判所ハ遺囑書ノ信否如何ニ關シ其遺囑書ニ記名スル保證人ヲ究問スヘシト雖モ若シ此人審問ノ際ニ臨ミ審問ヲ受ヘキ相續人保證人又ハ其他遺囑ニ關係アル者不在ナルトキハ裁判所ハ審問開庭ヲ他日ニ讓リ其手續ヲ新聞紙上ニ廣告スルモノトス

裁判所ニ於テ捧呈シタル遺囑書ヲ適當ニ調製シタルモノト認定スルトキハ其遺囑書ニ記載スル所ノ遺囑管理人ニ宛テ遺囑處分命令書ヲ下附スルモノトス然レトモ其之ヲ下附スル前ニ裁判所ハ豫メ遺囑管理人ヲシテ誠實ニ其職務ヲ行ヒ若シ不都合ノ所爲アルトキハ裁判所ノ意見ヲ以テ命スル所ノ罰金ヲ拂フヘキ旨ノ誓書ヲ提出セシメ且ツ正直信實ヲ以テ之ヲ執行スルコトヲ宣誓セシムルナリ故ニ遺囑管理人ハ右ノ手續ヲ履行シタル後初メテ命令書ヲ受領シ以テ遺產處分ヲ爲スナリ死亡者ノ遺囑ナキ場合ニ於テハ相續人又ハ其他在日本ノ遺

産ニ有利的關係ヲ有スル人ヨリノ請願ニ應シ無遺囑處分命令書ヲ裁判所ヨリ下附スルモノトス故ニ無遺囑ノ場合ニ於テハ相續人又ハ其他右ノ關係ヲ有スル人ヨリ裁判所ニ對シ之カ下附ヲ請願セサル可カラス且ツ其請願書ニハ死亡者ノ死去シタル時日及ヒ場所領事廳ノ管轄地内ニ死亡者ノ遺産アルコト死亡者遺囑ヲ爲サヽリシコト及ヒ請願書ハ其處分命令書ヲ受ヘキ權利ヲ有スルノ理由ヲ審カニ記載セサル可カラス而シテ裁判所ニ於テハ右ノ請願書及ヒ其證據物ヲ審査シ試ニ右ノ請願者アル旨ヲ新聞紙ニ廣告シ他ニ右遺産ニ關シ異議ヲ容ル人ナキトキハ請願者ニ宛テ無遺囑命令書ヲ下附スルモノトス然レトモ此ノ場合ニ於テ亦前項ト均シク豫メ請願者ヲシテ誠實ニ其職務ヲ行ヒ若シ不適當ノ所爲アルトキハ裁判所ヨリ命スル所ノ罰金ヲ拂フヘキ誓書ヲ出サシメ且ツ正直信實ヲ以テ之ヲ執行スルコトヲ宣誓

英吉利法律講義録　1887(明治20年)　第1年級第16号(1887年1月1日発行)

裁判執行附則

ろRules supplemont to execution

執行命令書ヲ下附シタル後ノ處分方法

セシメタル後之ヲ下附スルナリ

○裁判執行附則

負債主ノ財産ニ對シテ執行ヲ遂ケ債主請求額ノ全部又ハ其一部ヲ滿足セシムルニ足ラサルコトヲ「マーシヤル」官ヨリ報告スルトキハ債主ハ右ノ報告アリタル後ハ何時ニテモ裁判所ニ對シテ被告(負債主)召喚狀ヲ請求シ被告人ヲシテ召喚狀ニ記載スル場所及ヒ時日ニ於テ裁判所ニ出頭セシメ其財産ニ關スル答辯ヲ爲サシメ得ルモノトス然レトモ其之ヲ出頭セシメ得ルハ被告人居住地ノ裁判所ニ限ルモノニシテ居住地以外ノ裁判所ニハ出頭セシムルヲ得サルナリ

財産ニ對スル執行命令書ヲ發シタル後負債主其所有ノ財産ヲ以テ債主ノ請求ヲ滿足セシムルコトヲ不正ニ拒絶スル旨債主ヨリ上伸書ヲ以テ充分ニ證明スルトキハ裁判所ハ豫メ時日ヲ期シテ被告(負債主)ヲ

召喚シ右財産ニ關スル答辯ヲ爲サシメテ以テ債主ノ請求ヲ滿足セシムルノ手續ヲ履行スルナリ若シ又負債主逃亡ノ恐レアルコトヲ上伸書ヲ以テ證明スルトキハ裁判所ハ直ニ「マーシヤル」官ニ命シ負債主ヲ捕縛シテ裁判所ニ引致シ右訴訟ノ終局ニ至ル迄ハ何時ニテモ裁判所ノ召喚ニ應シテ出頭シ且ツ執行免除ニ屬スル財産ノ外決シテ其所有物ヲ賣買讓與等ヲ爲サヽル旨ノ誓書ニ保證金ヲ添ヘテ裁判所ニ呈供スヘキコトヲ命シ負債主直ニ其誓書ヲ提供スルトキハ之ヲ放免スルト雖モ若シ其誓書ヲ呈供セサルトキハ之ヲ監禁スルモノトス

財産ニ對スル執行命令書ヲ發シタル後其命令ヲ受ケタル負債主ニ對シテ負債ヲ有スル人ハ其負債ノ全額又ハ執行ヲ滿足スルニ必要ナル部分ヲ「マーシヤル」官ニ支拂フコトヲ得ヘシ而シテ「マーシヤル」官ノ受領證ハ其支拂ヒタル額丈ケノ義務履行ノ確證タルヘシ

英吉利法律講義録　1887(明治20年)　第1年級第16号(1887年1月1日発行)

負債主ノ財産ニ對スル執行報告後ニ於テ負債主ノ所有ニ屬スル五十弗以上ノ財産ヲ所持スル人若クハ會社アリ又ハ右負債主ニ對シ五十弗以上ノ負債ヲ有スル人若クハ會社等アルコトヲ債主ヨリ上伸書ヲ以テ充分ニ證明スルトキハ裁判所ハ豫メ時日ヲ期シテ右等ノ人又ハ會社ノ役員ヲ召喚シ右財産ニ關スル答辯ヲ爲サシムルナリ

執行ノ時ニ於テモ亦審問ノ場合ト同一ノ方法ヲ以テ裁判所ニ保證人ヲ召喚シ其證言ヲ爲サシメ得ルモノトス且ツ裁判所ハ苟モ負債主ノ所有ニ屬スル財産ニシテ執行免除ニ係ル物ノ外ハ其負債主ノ手ニ在ルト否トヲ問ハス擧テ之ヲ債主ノ請求ヲ滿足セシムルニ充ルモノトス

違反者處分ノ方法

執行ノ場合ニ於テ裁判所ノ命令ニ違背スル者(對手證人等)ハ皆法庭悔辱ノ罪ヲ以テ罰スルモノトス(領事廳規則第百十五條乃至第百二十一

條ヲ參觀スヘシ)

○再審(は)

再審は New trial

左ニ記載スル理由アリテ實際對手ノ權利ヲ毀損スルトキハ其權利ヲ毀損セラレタル對手ノ請求ニ依リ裁判言渡ヲ取消シ更ニ再審ヲ許可スルコトアリ

再審ヲ許ス場合

第一 裁判所ノ手續又ハ命令中ニ不法ナルコトアリ或ハ不當ノ認定ヲ下シタル爲メ對手ノ一方ニ於テハ公正ノ審問ヲ受クル能ハサリシ場合

第二 通常ノ注意ヲ以テ防禦シ能ハサル不意ノ事變又ハ驚愕ヲ來シタル時

第三 最初審問ノ際ニ於テ相當ノ注意ヲ用ヒタルモ發見スルヲ得サリシ必要ノ證據物ヲ更ニ發見シタル場合

英吉利法律講義録 1887(明治20年) 第1年級第16号(1887年1月1日発行)

第四　偏頗愛憎ノ情欲ニ制セラレテ非常ノ損害ヲ蒙ムラシメタルモノト認定スル塲合

第五　證據不充分ニシテ判決ヲ支ユルニ足ラサルカ又ハ證據物ノ法律ニ背反スル塲合

第六　審問ノ際ニ於テ法律ノ錯誤ヲ來シ對手ノ一方(再審ヲ請求スル方)ニ於テ之ニ反對シタル塲合

右第一第二及ヒ第三ニ記載スル理由ニ基テ再審ヲ請求スルニハ必ラス上伸書ヲ以テ之ヲ請求セサル可カラスト雖モ其他ノ塲合ニ於テハ必スシモ上伸書ヲ要セス單ニ陳述書ヲ以テ足レリトス是他ナシ第四第五及第六ノ塲合ニ於テハ其果シテ然ルヤ否ハ別ニ上伸書ヲ要セサルモ裁判所ノ記錄ニ依テ判然スレハナリ

再審ヲ請求シ得ル期限

又再審ヲ請求セント欲スル所ノ人ハ左ノ期限内ニ於テ豫メ書面ヲ以

テ其報告ヲ爲サヽル可カラス卽チ領事官ト補助員トニテ訴訟ヲ審問シタル塲合ニハ其裁判言渡後五日內ニ領事官一名ニテ審問ヲ開キタルトキハ其裁判言渡後二日內ニ再審請求ノ報告ヲ爲スヘキモノトス且ツ其報告書ニハ再審ヲ請求スル理由モ亦之ヲ記載セサル可カラス而シテ請求者ハ右ノ報告ニ爲シタル後五日內又ハ裁判所カ請求ニ應シテ與ユルニ十日以下ノ猶豫期限內ニ於テ前ニ述ヘタルカ如キ上伸書又ハ陳述書ヲ裁判所ニ提供スルモノトシ若シ右ノ五日內又ハ對手双方ノ間ニ合意シタル期限內又ハ裁判所ヨリ與フル猶豫期限內ニ於テ上伸書或ハ陳述書ヲ捧呈セサルトキハ裁判所ニ於テハ右再審請求ノ權利ヲ放棄シタルモノト認定スルナリ

再審請求ノ報告書中證據不充分ニシテ判決ヲ支フルニ足ラサルコトヲ請求ノ理由トシテ記載スルトキハ其特ニ不充分ナル點ヲ擧ケ請求

英吉利法律講義録　1887(明治20年)　第1年級第16号(1887年1月1日発行)

者ノ根據トスル所ヲ明示セサル可カラス若シ又審問ノ際ニ於テ法律ノ錯誤ヲ來シ對手ノ一方ニ於テ之ニ反對シタルコトヲ再審請求ノ理由トシテ之ヲ其報告書ニ記載スルトキハ特ニ其錯誤ノ點ヲ明示スヘキモノトス故ニ右等ノ點ヲ明示セサル陳述書ハ之ヲ採用セサルナリ且ツ陳述書ニハ格段ナル錯誤ノ點ヲ說明スルニ必要ナル證據又ハ參考トナルコトハ詳カニ之ヲ記載セサル可カラスト雖トモ其他ノ點ニ涉ルヲ要セス而シテ其陳述書中記載スル事柄ニ關シ若シ原被双方間ニ合意スル能ハサルトキハ其趣旨ヲ裁判官ニ報告シ其判定ヲ仰クト雖トモ原被相互ニ合意シタル塲合ニ於テハ原被相互ニ合意シ且ツ正當ナル陳述書タルコトノ保證狀ヲ添ヘテ其陳述書共原被告又ハ其代言人ヨリ之ヲ裁判所ニ提供セサル可カラス又原被双方間ニ於テ合意スル能ハサルトキ裁判官自ラ判定シタル塲合ニハ裁判官ヨリ其陳述

英吉利法律講義録　1887(明治20年)　第1年級第16号(1887年1月1日発行)

控訴 appeal

書ノ正當ニシテ且ツ自ラ判定シタル旨ノ保證狀ヲ呈供スヘキモノトス而シテ論辯ノ時ニ至レハ訴答狀、口供證據書類及ヒ裁判所ノ記錄等ヲ參考ノ爲メ引用スルヲ得ルナリ

若シ上伸書ヲ以テ再審ヲ請願スル場合ニ於テハ其反對ノ地位ニ立チ入ルモ亦審問前ニ上伸書ヲ以テ反求スルヲ得ヘシ然シテ其反求上伸書ハ少クモ審問前一日ヲ隔テ之ヲ呈供セサル可カラス斯ノ如キ上伸書反求上伸書及ヒ審問ノ際ニ引用シタル訴答狀口供又ハ裁判所ノ記錄等カ卽チ再審許否ノ命令ニ對シ扣訴スル時所謂扣訴書類ト稱スルモノナリ且ツ右等ノ上伸書口供及ヒ裁判所ノ記錄ニシテ審問ノ際ニ險閱シタル書類ニハ裁判官ノ檢印ヲ受クヘキモノトス

○控訴

合衆領事裁判廳ヨリ公使裁判廳ニ扣訴スルヲ得ルハ訴訟入費ヲ除キ

金額五百弗以上二千五百弗以下ノ事件ニ限ルモノニシテ金額二千五百弗以上ノ事件ハカリフオルニア州桑港ニ在ル合衆國地方裁判所ニ控訴スルモノトス(改正布告第四千〇九十二條乃至第四千〇九十三條ヲ參觀スヘシ)

民事訴訟ノ金額五百弗以下ノ塲合ニハ領事裁判廳ノ判決カ即チ終審裁判ナルヲ以テ他ニ扣訴スルヲ得サルナリ

法律上公使裁判所ヨリ在カリフオルニア州合衆國地方裁判所ニ扣訴スルコトヲ許ス塲合ハ公使裁判所カ始審ノ管轄權ヲ以テ裁判ヲ言渡シタルトキ及ヒ訴訟入費ヲ除キ金額二千九百弗以上ノ事件ニ限ルモノトス(改正布告第四千〇九十四條ヲ參觀セヨ)而シテ斯ノ如キ性質ノ事件ハ領事官カ訴訟ノ對手人タルカ又ハ其保證人タル塲合ニ限リテ起ルモノナリ(改正布告第四千百〇九條ヲ參看スヘシ)

英吉利法律講義録　1887(明治20年)　第1年級第16号(1887年1月1日発行)

控訴ヲ爲シ得ル場合ニ二種アリ

第一

法律上終審裁判ト爲サヽル裁判言渡ニ對シテハ其裁判言渡後一年間ニ於テハ何時ニテモ控訴スルヲ得ヘシ

第二

再審ヲ許可シ又ハ拒絶スルノ命令禁止令ヲ下附シ解除シ又ハ變更スルノ命令財産差押ヲ解除シ又ハ之ヲ解除スルコトヲ拒絶スルノ命令及ヒ終審裁判言渡ニ與ヘラレタル特別ノ命令等ニ對シテハ其命令下附ノ後六十日以内ニ於テハ何時ニテモ控訴スルヲ得ルモノトス(領事廳規則第百二十六條ヲ參看スヘシ)

凡テ控訴ヲ爲スニハ先ツ裁判言渡ヲ爲シ又ハ命令ヲ下附シタル裁判所ニ對シ裁判言渡ノ全部若クハ一部分ニ就テ控訴スル旨ヲ報告シ其

英吉利法律講義録 1887(明治20年) 第1年級第16号(1887年1月1日発行)

報告書ノ寫ヲ反對ノ地位ニ立ツ人又ハ其代言人ニ送達セサル可カラス(領事廳規則第百二十七條ヲ參觀スヘシ)

若シ又控訴スルヲ得ヘキ權利ヲ有スル人ニ於テ裁判言渡又ハ命令ノ記錄ニ控訴狀ヲ添附セント欲スルトキハ裁判言渡又ハ命令ヲ登錄シタル後二十日以內ニ右ノ控訴狀ヲ調製シ且ツ其訴狀中ニハ格段ナル錯誤ノ點卽チ控訴ヲ提起スルノ理由及ヒ其錯誤ノ要點卽チ控訴ノ理由ヲ說明スルニ必要ナル證據ヲ記載シ其謄本ヲ被控訴者ニ送達スルモノトス而シテ被控訴者ハ其送達ヲ受ケタル後五日以內ニ答辯書ヲ調整シテ其謄本ヲ原告控訴人ニ送達スルナリ

次ニ控訴人ハ其控訴狀及ヒ被控訴人ヨリ送達ヲ受ケタル答辯書ヲ裁判官ニ提供シ二日前ニ被控訴人ニ報告シテ對審ヲ請求スルトキハ裁判官之カ判決ヲ下スモノニシテ若シ被告ヨリ答辯書ヲ送達セサル塲

合ニハ控訴狀ヲ裁判官ニ呈供シ被控訴人ヘノ報告ヲ要セス裁判官ハ直ニ判決ヲ下スナリ(領事廳規則第百二十八條ヲ參看セヨ)

若シ又控訴人ニ於テ右ニ記載シタル一定ノ時限內ニ控訴狀ヲ調製送達セサルトキハ其控訴ノ權利ヲ放棄シタルモノト認定スルナリ而シテ控訴人ヨリ控訴狀ヲ送達シタル後一定ノ期限內ニ於テ被控訴人ハ答辯書ヲ提供セス控訴人ニ於テハ被控訴人ニ對審ノ報告ヲ爲サヽルトキハ被控訴人ハ控訴人ノ控狀ニ合意シタルモノト見做シ控訴人ハ被控訴人ノ答辯書ニ服從シタルモノト見做スヘシ然レトモ裁判官ハ原被告間ノ合意如何ニ抱ラス事實又ハ法律ノ錯誤ヲ改正スルノ權力ヲ有スルモノトス(領事廳規則第百二十九條ヲ參看セヨ)

裁判官自ラ訴狀ヲ判定シタル場合ニ於テハ其之ヲ認承シ且ツ正當ナル旨ノ證明書ヲ添ヘテ之ニ其證印ヲ附シ原被兩造間ニ於テ合意シタ

英吉利法律講義録　1887(明治20年)　第1年級第16号(1887年1月1日発行)

ルトキハ原被告又ハ其代言人ヨリ双方ノ間ニ合意シ且ツ正當ナル旨ノ證明書ヲ添ヘテ之ニ調印スルモノトス而シテ裁判官自ラ判定シタルトキ原被告双方ノ間ニ合意シタル場合トヲ問ハス何レニシテモ之ヲ裁判所ニ提供セサル可カラス(領事廳規則第百三十一條參觀)

裁判所ノ判決ニ服セスシテ控訴スルトキハ其始審判決書類ノ謄本ニ控訴狀ノ寫ヲ添附シ裁判所ノ命令ニ對シテ控訴スルトキハ其命令書ノ寫ト共ニ控訴狀ノ謄本ヲ提供スヘキモノトス(領事廳規則第百三十二條ヲ參看スヘシ)

始審裁判所ノ判決或ハ命令ニ服セスシテ控訴スルトキハ控訴裁判所ニ於テハ控訴ノ趣旨ヲ審理シ原裁判所ノ判決或ハ命令ヲ破棄認可或ハ變更スルコトアリ且ツ右ノ判決或ハ命令ニ追隨スル手續ノ全部又ハ其一部分ヲ破棄認可又ハ變更シ得ルノミナラス必要ト認ムルトキ

英吉利法律講義録 1887(明治20年) 第1年級第16号(1887年1月1日発行)

ハ更ニ再審ヲ命スルノ權力ヲ有スルモノトス而シテ控訴裁判所ニ於テ原裁判所ノ判決又ハ命令ヲ破棄若クハ變更スルトキハ原裁判所錯誤ノ判決或ハ命令ノ爲メニ控訴者カ損失シタル所ノ財產及ヒ權利ノ全部ヲ回復スルト雖モ若シ充分ノ理由ナク妄リニ執行延期ヲ目的トシテ控訴スル者アルトキハ裁判所ハ控訴者ヲシテ訴訟費用ノ他ニ相互ノ損害ヲ賠償セシムルナリ(領事廳規則第百三十五條參觀)

裁判所ノ判決ニ對シ控訴スル場合ニ於テ控訴者ハ控訴報告書ノ寫及ヒ原裁判所ニ提供シタル辯論書其他控訴ノ要點ヲ證表說明スルニ必要ナル書類ヲ控訴裁判所ニ呈供シ命令ニ服セスシテ控訴スル場合ニモ亦其控訴報告書ノ寫ト共ニ原裁判所ニ提供シタル必要ノ書類ヲ控訴裁判所ニ提供セサル可カラス而シテ原裁判所ニ於テ其判決又ハ命令ヲ下ス時ニ至リ意見書ヲ呈供シタル場合ニハ其意見書ノ寫モ亦之

英吉利法律講義録　1887(明治20年)　第1年級第16号(1887年1月1日発行)

ヲ控訴裁判所ニ提拱セサル可カラス控訴者ニ於テ若シ右等必要ノ書類ヲ提拱セサルトキハ其控訴ヲ却下シテ受理セサルモノトス(領事廳規則第百三十六條ヲ參看スヘシ)

凡ソ控訴ノ手續ヲシテ其効力ヲ有セシムルニハ控訴者ノ方ニ於テ豫メ二名以上ノ保證人ヲ立テ三百弗以下ノ金券若クハ現金ヲ原裁判所ニ提拱シ置キ控訴裁判ノ結果如何ニ依リ隨テ生スル所ノ費用及ヒ損害ヲ辨償スルコトヲ證明セサル可カラス而シテ右ノ保證狀若クハ現金ヲ提拱スルニハ必ラス控訴ノ報告ヲ爲シタル日ヨリ五日以內ニ於テスヘキモノトス(領事廳規則第百三十七條ヲ參看スヘシ)

前既ニ陳述シタル如ク控訴ノ手續ヲ完全スルトキハ原裁判所ノ判決又ハ命令ノ執行ヲ停止スルモノニシテ例ヘハ財產差押解除ノ命令ニ對シテ控訴シ其手續ヲ完全スルトキハ財產差押ハ控訴裁判ノ結局ニ

英吉利法律講義録　1887(明治20年)　第1年級第16号(1887年1月1日発行)

至ル迄依然其効力ヲ有スルナリ然レトモ原裁判所ノ執行ヲ停止スルハ單ニ控訴ノ要點ニ關スル部分ニ限ルモノニシテ其他ノ部分ニ効力ヲ及ホスヲ得サルモノトス

控訴人ヨリ提拱スル保證狀ニハ必ラス保證人ノ上伸書ヲ添ヘ其保證人タル者ハ皆日本帝國内ニ於テ相應ノ財産ヲ有シ執行免除ノ財産ヲ除キ自己ノ負債ヲ辨償シタル後尚ホ右保證狀ニ記載スル金額ニ對スル財産ヲ所有スルコトヲ證明セサル以上ハ保證狀ノ効力ナキモノトス但シ右ハ保證ノ金額三千弗以下及ヒ二名以下ノ保證人ヲ立ル塲合ニ限ルモノニシテ金額三千弗以上及ヒ二名以上ノ保證人ヲ立ルトキハ各保證人ハ必ラスシモ保證狀ニ記載スル金額ノ財産ヲ所有スルヲ要セス二名以上ノ所有財産合額保證狀ニ記載スル金額ニ二陪スル旨ヲ其上伸書ニ陳述スルヲ以テ足レリトス(領事廳規則第百四十三條ヲ

英吉利法律講義録　1887(明治20年)　第1年級第16号(1887年1月1日発行)

參看スヘシ)

裁判費用

裁判言渡後ノ手續ハ費用ヲ賦課スルコトニシテ訴訟ニ關スル一切ノ費用ハ敗訴者ヲシテ之ヲ負担セシムルヲ通例トス然レトモ或ハ裁判所ノ意見ヲ以テ費用ノ一部ヲ原告ニ負担セシメ他ノ一部ヲ被告ヲシテ辨償セシメ或ハ又毫モ費用ヲ課セサルコトアリ蓋對手ノ一方ヨリ他ノ一方ニ對シテ請求スルコトヲ得ル費用ハ訴訟ニ直接ノ關係ヲ有スル實費ニ限ルモノニシテ旅費及ヒ證人ノ日當等ヲ云ヒ代言人ノ謝金ノ如キハ訴訟費用中ニ計算スヘキモノニ非ラス

然レトモ裁判所ノ書記「マーシヤル」官、通辯官及ヒ補助員ノ報酬ノ如キモ亦右ノ費用ト共ニ之ヲ徵收スルナリ

附言民事訴訟ノ手續ハ右ニテ完全シタルヲ以テ次テ刑事訴訟ノ手

續ヲ講述スヘシ

民事訴訟手續ノ部　全

英吉利法律講義録　1887(明治20年)　第1年級第16号(1887年1月1日発行)

合衆国領事裁判訴訟法/シドモール(講義)；渋谷慥爾(訳述)；畔上啓策(編輯)

（英吉利法律講義録（1886(明治19)年度　第1年級））

121 ページ以降（刑事訴訟手続の部）の講義録は非所蔵